KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
Inches Centimetres
分類 ＞4
5284

貴重書

上月氏藏書

門へ4
號 5284
卷

昭和二六年
十月二九日
購求

やまとうたは人の心をたねとしてよろづのこと
の葉とぞなれりける世中にある人ことわざ
しげきものなれば心に思ふことを見るもの
きくものにつけていひいだせる也花になく
うぐひす水にすむかはづの声を聞ばいきとし
いける物いづれか歌をよまざりける力をも
入ずして天地をうごかし目にみえぬ鬼神をも
あはれと思はせ男女の中をもやはらげ猛き
武士の心をも慰むるは歌也

なをとかるゝはこのゆふわけ世のあめつちの
ゝまわるゝ所ときくを以てきりうゝわ
あまれうきゝのたゝめの神を神と
なわたまへるゝと成いへるうこゝわ　きつねのまてゝも世
はさいるきとはひさうこれあめのみてゝたゝこ
てふひのふゝまわ　きつこふひゝとはあめわつえ
なゝあうつわてかゝやく成ゝあふひとうこ神のゝ
こゝ神ゝはゝ乃ふもうこまゝ　ゝ乃ふもうこまゝ　ゝ乃ふもうこまゝ　ゝ乃ふもうこまゝ
あゝのまれはちゝふてはすこれをよみことわた
れこわゝふちりやゝ神代はいうこのゝ
さゝこまゝ次ゝ歌乃心わさゝ

かわらぬ一人の世となりてすきのをれこと
ようまうみうも一ぬまるをひとも一ハくるる
すきのをれことハあまてふおりん神のこれくなわせと
いえたまりんとていのもの國よ宮ほくわもてまつ附よ
うの所よやいろの宮乃くりの所をえてくえ給てるあわ
やくもこりいつもやへうきつまこめふ色へきほくふうれやへうき城
かくてう也をめてくとわ城うくやこうひく城あハ
きひは遊をかるく梅ん人と素おりくさ海くふ
なわにくふと殺ず亦も以てくりあ
はくまるて年身をわうわたくき山もふも
とらわひらうわなるて雲たるひくまて

おひのか拾るもくにこれうもかくれとく
なるへくなふハはの哥ハみくとのおりんりめ
なる　おりくきくきの尺くとのなるふハはくてみこときこえ
くて三年よなわにくれて王たといふ人のいあるわ思ひて
くみてたくまつるくふ方也この花ハ梅乃也をいるくへく
あくう山乃ちとはくうもあれたくふまくとわら
みて　かつくきのおりうえをみちのおくへはくりくわくる
にくれつくさくとおくうくあくくて海くけをと
くわくれとすくまくくわくれハうもあなわくる女のか
りくきくわくてくる海なわくうおかくされ心くけよくふ
これくて歌いうくふ乃女母のやう山くてくて海
らふ人のくくめふくくふうもくくふれ

さほ山のなかにかくれぬるをみてよめる

うれせずくるのひとりのよりてかたらさな

乃ゐ門をうへたてまつるまを風ふく

なかふくほよりはちやれむをみこもち

ひとはまへとさくやこの花といへるをよめ

ゆふ川まはかりへうつ

うくむよ思ひはちきあれあちきあさ分に

いろまれいをもさくひてといへるなりし

れいたくもとふいひてもものよたとへるとも世あぬ也

ものうさいふいひてもあんちれんちえうしいろは

たくさと弄といへる

あんこれまいるのつかは

ゆりいなひくへうつ

君よけさあるこの霧乃おもそいふい色

もとふきさやそてんといへるなりへ

こ袖いわもなけくへてうれうやにふんあるとやうにい色

ものうさくうるへるとも人へ

ま遊こもわいつせくもあるいをあいにて

うやうなるやこれまいるのつへ

ゆりいたくへまつ

秋恋いもむもはもあ山あちう海の浜乃

まさこいはみはくはもと以へるるへ

これはよ後の世の末をかけて心をこゝろのうち社
宮ハうとれる所なんあきさ秋とうしのなかるへ〜次まのあすのこゝろやく嵐
風をいとゝ思ふあらしよたるひさふるわいかるやうふへんん

浦うらいたゝこゝろうし

いはりわれなき世なりわ世はいとうわ人の云
のゝ嵐〜りまの一世以へふなるへ〜

こ秋はいとのゝ乃かわたゝ〜き幾いつわこ社宮乃ふさにふる花
とあ奇とやいつへうん山桜あくまて幾うる風花ちへゝ風うあ
もり

こ秋はいとのゝ乃かわたゝ〜き幾いつわこ社宮乃ふさにふる花
とあ奇とやいつへうん山桜あくまて幾うる風花ちへゝ風うあ
もり

こ社の世へもとあ乃わ幾ゝ社乃つ
ゆ葉ゝとのはゝわをるゝといあるうん

こ秋はい世をりあて神ゝはゝふなわこ社宮いゝひうゝこゝいへん
次ゆんあ宮意日聖ゝわりふつ宮はゝ乃ゝ幾いゝふんい秋て
ゝるゝんこ秋ゝやゝこ〜かゝつへうんあかうう
むくゝふゝるゝ秋んゝといえあるゝまゝきまにんん

いろはゝよ人の心色ゝなわにゝるゝわあゝるゝ
うゝゝ風葉ゝとのゝ以ゝゝれゝゝこゝの乃
いあもゝ秋ゝ社人ゝまあゝゝなるて風先
なゝとゝ幾ゝい色はゝきりいゝへきゝりにも
あゝはゝわにゝるゝう濃ゝ幾思へいゝあく
なんあゝぬいゝ〜乃ゝれみゝと言の花乃あ
〜た秋の月社黄ゝとふゝあゝ〜人ゝをゝて

ちとふはきをつくしてまつ人やたまつ
あはぬ恋をうらつたなさ所をまとひあるハ
月をおもふとてさくらふきやふとて飛る心こそ
みたまとひてはしをなんふ
きうあるのこゝろあるこゝろ
山りうけて実成ひとつひ分にすき
たのしんしんはまつ人の煙をうへて人
をうひ松出ものゝ成ものひとる桜住の花
乃松もあのをひのをにあかく男山ハ貴成

思ひ出てをこゝろへ乃一時をこゝ移るふも
うをいひてうなくこゝろあるこゝ春みまのあ
花のうる成ん梅乃夕こゝ秋よこ乃こゝ成ふを
きてあ新ハとしふあんゝ乃けよんゆる恋
恋こ成なけよ菊の露水のあこ成ん成ものこ
月をおとゝ乃美あ所いきのふいこゝ人をこゝ時
をこゝあひ世こゝ乃ひこゝ成こゝもこゝく
なわはるハ松山乃恋をけ野なれの成く
秋こ紀乃こゝ成なあるふのこゝれ

[illegible]
人よりひとりのかくれひとりなれば世界はうしろ
きつるふとはいふものの山も煙りて波あわなる
のくもはくるかわときくに人はうにのこう
んをなくはいのをぶいふへとわかくてこうる
うちふもなくれば時くわうひはまわり
くるれおりん世やあれんをこはめうわ
をんう流おかむときくるおりきこのくるぬ
きのもの人もりんうのひるまなわるる

これは言もひとも分ぬあらせわといふ
秋乃ゆふへ新田川なるかるもみち波はいろと
のおりんめふ弱とみたまひ春のあたら
乃くも乃くるくはい人まぬら心はいをとものんん
おりくるくるみ山のへ乃あるる人といふ人あわるる
うるにあやくくへなわるる人まるはい赤人の
かえはたんとあるくあるくはい人まぬらるる
たんもとかくなんあわるる　あるのみとの山
くれくるくるわわくくはい新田川流業
もみえはひさるのあ風きるる言れなくぬまくはいのくるある

乃うしのあさぢはらにしのびけれ行無我より思ひ赤人妻のもとへすると
まほろにとこしわすれが我身とひと夜我にをなし　わが袖
りさかみちくれいらこそみを
おしへをさしてころはまる　これ人々をこきえみすれ
たる人もら我竹乃世々に生きこえるこいとのわ
よるふたゞ涙かあわれなほこれよわは生死分我
あつめそなん万え細きことなつきて我なわなほ
あるにいふしへ乃こと我も哥乃心をもさまる人
まほろふひとわかつわかあきさてあれとこ我
られえるると緑えぬ成るひさかんあほなれ
流行よわこれうこ年ハ始と世あまわ世いとろほ

なんあわに乃るいはしへ乃事我もまうこなとも
さまほ人よむ人ありうにとこれハと我いふ
ほうさくぬるこれ人をほとやほ義在るあれハ
いまひまかよちうきさ世よられ名きてこほ人ハする
よち俗心通眼いうその心は八えられともまくと
すくなしたとへハ色するけふなきう眼をとみてさいさ
ほうよ心をうしうほうさとし
あさきとわいとよりわけ
て白露をおきもぬる
妻の杤う　うちほその小うわにさまぬかえてなふりハ露をさおきと
あさむくさのそて馬よわあちそよあほ　名よめてくあきさうわ
うたこえへし我あち
ゆきと人よるなほ那　あわいくれなわひくハうれてる

いはゞしぼめる花乃色なくて
にほひのこれるかごとし

月やあらぬ春やむかしの春ならぬ我身ひとつハもとの身にして
ありはらハ月をもめでしこれらこのつもれハ人のおいとなるものを

ふんやのやすひでハ詞ハたくみにてそのさま
身におハず いはゞあき人のよききぬきたらんが
ごとし

吹からに野への草木のしほるれハむべ山風をあらしといふらん

きせん法師ハ詞かすか
にしてはじめをはりたしかならず いはゞ
秋の月を見るにあかつきの雲にあへるがごとし

わがいほハ都のたつみしかぞすむ世をうぢ山と人ハいふなり
よめる歌おほくきこ
えねハかれこれをかよハしてよくしらず
小町ハいにしへのそとほりひめの流なり あはれ
なるやうにてつよからず いはゞよき女
のなやめる所あるにゝたり つよからぬハ女の歌
なれハなるべし

思ひつゝぬれハや人の見えつらん夢としりせハさめざらましを
いろ見えでうつろふ物ハ世中の人の心の花にぞありける
わびぬれハ身をうき草の根をたえてさそふ水あらハいなんとぞ思ふ

大伴のくろぬしハ
そのさまいやし いはゞたきゞおへるやま

人の花のかけにやすめるかことし　おもひいてゝこひしき時ハはつかりのなきてわたると人ハしらすや　かゝみ山いさたちよりてみてゆかん年へぬる身ハおいやしぬると　このほかの
人々その名きこゆるのへにおふるかつらの
はひひろこりはやしにしけき木の葉の
ことくにおほかれとうたとのみ思ひてその
さましらぬなるへしかゝるに今すへらきの
あめのしたしろしめすことよつのときこゝ
のかへりになんなりぬるあまねき御うつくしみ
のなみやしまのほかまてなかれひろき

御めくみのかけつくは山の麓よりもしけくおはし
まして万のまつりことをきこしめすいとまもろ
もろのことをすてたまはぬあまりにいにしへのことをもわすれ
しふりにしことをもおこしたまふとて今も
みそなはし後の世にもつたはれとて延喜五
年四月十八日に大内記きのとものり御
書のところあつかりきのつらゆきさきのかひ
のさう官おほしかうちのみつね右衛門の
府生みふのたゝみねらにおほせられて万

えみしぬよいしぬかるきうらこゝろしれをも
たくましめ給ひてなんかれかなりに
もむあ哉か待とよわくしめてかとゆふひを
きてもみちをおもふ雪哉と待よいつるまて又
待るあるは待くて君をおもひ人をもいひ
姉なるきこ夜本哉くて待ま哉しひあかさう山よ
いつるまてむけをいのちあ待ハ去夜秋を
小もいしぬくさつの秋をなんえうてせた
まひる待もへて千うこはつこまさきなは終て

古とけりしぬといふくこれてひあ川あえう
い敷て山まてこのれさて浜の名所の寺お
ほく待もわぬまハいい海ハあすうしハ乃せり
な待うしるんもきこうえされ石のいとかあう
よ終こひのうかある人事を強枕去家去乃
花よかひすく那くしてもあしきまの名のこ
秋のよれなるき哉とそれもるハ人のえ
たうまる川き寄の台よそら思へとすひ
雲れたちぬなくしれおもよついつゆる

この世をはかなくむまれて此事の時ハ
あへなくをちんとなげこひあるへきあり
ゆゝしと歌乃ことゝかゝるまゝ行るゝふたゝひ時
うきわ事さわたのつとかゝるひゆゑふ
ともこのうゝ此もあるなやあ歌やさの糸
たゝ夜松のうゝ此歌うせひゝてまさる乃
ゝなくゝはさうゝとの花ひさうゝ
やゝまゝ行ゝハ歌乃うゝ歌をもさわうゝ歌
心をうゝうん人ハはかりゝ乃月歌うゝ歌

もゝゝゝいゝゝへをあゝゝゝいゝ歌
こゝひゝゝゝゝゝ

古今和歌集巻第一

春哥上

ふるとしに春たちける日よめる　在原元方

年の内に春はきにけり一とせをこそとやいはんことしとやいはん

春たちける日よめる　紀貫之

袖ひちてむすひし水のこほれるを春立けふの風やとくらん

題しらす　よみ人しらす

春霞たてるやいつこみよしのゝよしのゝ山に雪はふりつゝ

二條のきさきの春のはしめの御哥

雪の内に春はきにけり鶯のこほれる涙いまやとくらん

題しらす　よみ人しらす

梅かえにきゐる鶯春かけてなけともいまた雪はふりつゝ

雪の木にふりかゝれるをよめる　素性法師

春たては花とやみらん白雪のかゝれる枝に鶯のなく

題しらす　よみ人しらす

上月氏書

心うしなへるくうめてくおわけけきはきてあんぬ雲れ雨とうらん

あるこ人のいりくらうのかりきわかいまうちきれ時

二條后のとう雲れうやとむ所ときてこんろ時

正月うあおまへくあり世ちとあるたのひさま

日はてくわなうくう雲れうふぬわかうまくろ雪を

うまを踏くる　ぬんやの屋ひひて

雲れ日のひうにあうう我雲れとかうくれ雲とあうくわひ

雲乃浮うゆをうまる歌　しま

きのたくゆ家

飛うちれめも雲の雪ふれむあき雪も花ちる行

雲の姿ようあら　ぬちりくれとふ我

くうやとき花やをうきときくわん嘗ともうたれ

春れ姿の秋　くふ乃てくまて

雲きぬと人いいくとも雪れなうぬきわいあくとう思ふ

雲雪ち時雪さいの雪れ歌合乃うこ

源まさひん

雲見ようとふ雪のひうとふうち出う流や雲のうも

紀とも乃わ

花の香を風乃たよりにたくへてそ鶯さそふしるへにハやる

大江千里

鶯の谷より出るこゑなくハ春くることを誰かしらまし

在原棟梁　業平朝臣男

はるたてと花も匂ハぬ山さとハ物うかる音に鶯そなく

題しらす　よみ人しらす

のへちかく家ゐしせれハ鶯の鳴なるこゑハあさなあさなきく

春日のハけふハなやきそ若草の妻もこもれり我もこもれり

かすかのゝとふひの野守出てみよいまいくかありてわかなつみてん

み山にハ松の雪たにきえなくに都ハ野への若菜つミけり

梓弓おして春雨けふふりぬあすさへふらハわかなつみてん

仁和のみかとみこにおましましける時に
人にわかなたまひける御うた

君かため春の野に出て若菜つむ我衣手に雪ハふりつゝ

歌たてまつれとおほせられし時よみてたてまつれる　貫之

春日野のわかなつみにや白妙の袖ふりはへて人のゆくらん

題しらす　在原行平朝臣

[illegible]

寛平法皇さいの宮の方の宴にまゐる

源むすめ

ときはなる松の緑も春ごとに花のかをりを
袖にうつすらん

[illegible]

我せこが[illegible]

[illegible]

西大寺のほとりの梅をよめる

[illegible]

僧正遍昭

題しらず

もちろの花ちるまがひに[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九河内[illegible]

春ごとに花のかをるあり明の月はいつ[illegible]

[illegible]

伊勢

春霞たつを見捨てゆく雁ハ花なき里にすみやならへる

題しらす　よみ人しらす

をりつれハ袖こそにほへ梅花ありとやここに鶯のなく

色よりもかこそあはれとおもほゆれたか袖ふれし宿の梅そも

やとちかく梅の花うへしあちきなくまつ人のかにあやまたれけり

梅の花たちよるはかりありしより人のとかむるかにそしみぬる

むめの花をゝりてよめる

東三条左のおほいまうちきみ

鶯のかさにぬふてふ梅の花をりてかさゝむおいかくるやと

題しらす　素性法師

よそにのみあはれとそ見し梅花あかぬいろかはをりてなりけり

梅の花をゝりて人におくりける　とものり

君ならて誰にかみせん梅花色をもかをもしる人そしる

くらふ山にてよめる　つらゆき

梅の花にほふ春へはくらふ山やみにこゆれとしるくそありける

月夜に梅の花をゝりてと人のいひけれハおるとて

[illegible]

みつね

月夜にうめをよめる　梅花をうしなはでとしのこのうめ

けるかとぞみまがへ花をよめる

春の夜のやみはあやなし梅花色こそみえねかやはかくる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅花をたれかわくらんよめる

[illegible]

人はいさ心もしらずふるさとは花ぞむかしの香にほひける

[illegible]

水のかをかぎわかむ梅花のさきちるばかりよめる

伊勢

春ごとにながるる川を見とせしはあはぬ人をぞ思ひやりける

[illegible]

あるじ[illegible]梅の花のちりけるばかりよめる

[illegible]

くれなゐにあくとうつれる梅をみるわれもうつろひぬらん

寛平御時きさいの宮の歌合のうた

藤原敏行朝臣

梅の花袖にうつせとこそ思へすでにかをとめてこそ

素性法師

ちるとみてあるべき物を梅花うたがふ袖にまがふ

影をとゞめて

紀友則

ちるまがひ雪とのみこそ見えしかど香のなつかしさ

人の袖にうつりてけりとゝめたるかとぞ思ふ

はるの歌

紀貫之

ゆく春をとゝめむ方のなきまでに散るぞ悪しかる

春の夜

凡河内躬恒

山ざくらあかぬ色香を春の夜の闇はなにぞ

みえぬぞ

凡河内躬恒

山ざくらにほひにあかぬ春の夜の闇はなにぞ

みえぬぞ

凡河内躬恒

ちるはなのなごりをしのぶ春の夜の月にぞ

ちるはなのなごりをしのぶ春の夜の月にぞ

ちるはなのなごりをしのぶ春の夜の月にぞ

ちるはなのなごりをしのぶ春の夜の月にぞ

ちるはなのなごりをしのぶ春の夜の月にぞ

ちるはなのなごりをしのぶ春の夜の月にぞ

ちるはなのなごりをしのぶ春の夜の月にぞ

ちるはなのなごりをしのぶ春の夜の月にぞ

辛崎さいさきひいおいのまつはあれど春雨はるさめ思ひなし

なほさの流ながれてくるくれなゐのもみぢ

吉原葉子

月中にあまて樵のなりかせ喜の忠分けこまま

影きてす　　みみ人

いりさ沙だ鶴くもりお樵花咲ちまんこね人のあ

山のさくれくれくれよめ歌

うせい法師

人々のやや人はかりん樵むてとにおるそいへつとせん

花さくわに京紅人色ぬてよりの面

見わ花ぬ樵樵をうき面をて赤う喜月弱ものの

樵乃月月もふて者のおひあるくれな

けりやくるる　　きれともの

さもかも松の首にくるくれと辛崎る人うあたまわ

おきぬくるくれらめ歌

ゆゆき

たれかもとあておわつる喜歌てちかくの月ん山の樵を

寄だきまつれと作り所時とくれたきまる

[illegible]

寛平御時きさいの宮の歌合のうた

やまとのわ

みよしの山へまかる橘の雪をうめるやまとかな

やまひきの月のあわをうつしうゑ

伊勢

橘花をうゑてかれるとしたる人の心をかれやハせぬ

ちとせをもかさねてにほへ橘のうゑしかひあるはるの人のきてみる歌

あるなりとあるをきてたれ橘をうゑしにまゐる人もまちかくなりぬれば朝に

遍昭

ふるゆきのあはにまがふ春の花をたれかはうゑしよそへ人人

貫之

影ーー次

ちるをぬきにかをつまんとて宮ーー歌を橘のうゑしにまゐる

おりてとるかをもあかぬ橘をいかやとかをちるまでにうん

きのあつとも

橘をうゑに花のいろをうめてはるの花のちるあんなの形見

[illegible]

ちるはなのさけるを見て歌よみて
きてわけるに人のよるべをたづねる
うりまる

わかやどの花ちるをみるなかるるを
亭子院歌合の時ちめ歌
きく

伊勢

ふる人もうゑしをれば梅むかしかたらはなれのちるさう

古今和歌集巻第二

春哥下

たいしらす　　よみ人しらす

春霞たなひく山の桜花うつろはんとや色かはりゆく

まてといふにちらてしとまる物ならはなにを桜におもひまさまし

残りなくちるそめてたき桜花ありて世中はてのうけれは

この里に旅ねしぬへし桜花ちりのまかひに家ちわすれて

うつせみの世にもにたるか花桜さくとみしまにかつちりにけり

僧正遍照によみておくりける

これたかのみこ

桜花ちらはちらなんちらすとてふるさと人のきてもみなくに

雲林院にてさくらの花のちりけるをみてよめる

そうく法師

桜ちる花の所は春なから雪そふりつゝきえかてにする

桜の花のちり侍りけるをみてよみける

そせい法師

花ちらす風のやとりはたれかしる我にをしへよ行てうらみん

うりん院にて桜の花をよめる

いさ桜我もちりぬんひとうわあ春ハ人さきぬんと

あひさ新わ春ハ人のまうでさそかへわまろ

のちにくらべて花とてはうゝ春ハ

けうゝゆゑ

ひとあへゝ春やゝ春と桜もふ待ちたちハちうん

山乃こゝ成ハてよめ歌

春霞なふくひとん桜花ちハ春ハ春ハ人さ西を

んちうゝなひとまうゝひろる時ハ風りハ

こゝゝとそ行ハこめて乃こ待ろるあひ

たゝおまハ桜乃ちわゝふな新わ春ハ成ハて

よめ歌

藤原ゝ春ハ朝臣

れハあて春の行ハもゝぬまふまちゝ桜もうつろひなわ

東宮雅院こそ桜乃花のみハふちて

なゝれゝ春を乃てよめ歌

すりけゝ法師

枝ゝわもあゝに散ゝ花ハれハちてもれあハとゝ

桜乃花ハちるゝ成ゝ春乃ゝ

つゝ春ぞ

ちるはうらのやはあらぬ櫻花みゝ我さへまちつんぶし

櫻乃ちるくちるあはいなしと人のいひなすを聞よめる

櫻花くちるぬるもおもしろし人のいろ風もまつ入ぬ

さそふ花乃ちる我よめる

きのとも乃ぶ

久しうの光のとけさ春のひよりかなく花乃ちるん

春宮のたち花乃ちるん櫻乃花ちる我

くもゐふ

ねぶ乃ふしを也

春風ハ花乃あるゝ我ゆき心つゝやうろふぶん

ちるゝ流ちる我よめる歌

九河内うつ

宮とのゝ梅乃たゝある我櫻花ゝ乃ちる風乃涙乃ん

ひんに乃ちわてゝ海うてゝ春をよめる

つゝゆき

山ゝみつわゝ櫻花風ハ心ゝ海ひてゝなれ

影しる

一本

大伴ゝ家持

春雨乃ふるハ涙乃ちゝ花ちる我行まぬ人ゝ為

亭子院歌合歌

つゝみ

横雲ちらめる風のふくにはあなきそ春の海の底

なつみと入乃浦うら

みる人もなかりしかとも春の花

ちりてのちこそ人はとめけれ

花のちは春をしをもてしらせはやとめぬとあるを思ひて

寛平御時きさいの宮の歌合のうた

素性法師

春ごとに花のさかりはありなめど

君しかへらぬ人ぞ恋しき

みな人しる

はるの歌

みな山をこしてもかくはさくらかな

うまんの法乃みのりをしるらん

ほとゝぎすなくこゑ聞かぬ山もやうん

花の本もとゝはなりわうへ

春ごとに花のさかりはありなめど

君しかへらぬ人ぞ恋しき

みな人しる

春ごとにあいをしたる宮ばしらの

けふはまことをしらめかな

はるの歌

みな山をこしてもかくはさくらかな

うまんの法乃みのりをしるらん

ほとゝぎすなくこゑ聞かぬ山もやうん

花ふきさく山の

ほとゝぎすなくこゑ聞かぬ時はなし

[illegible]せい

はるかすみ

[illegible]

題しらず　　[illegible]人[illegible]次

春[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛平御時きさいの宮の歌合のうた

藤原かねもと

[illegible]

[illegible]

在原元方

[illegible]

[illegible]

題　　次　　ちみ人さてす

常盤なくのへとふきそこれからのかをは風そ吹る
時風をなまそらしをなる常はは花の色はてるまつ

典侍治子朝臣

ちる花のなくはとあるは我常におもふはやは
花和乃中なるのやうはんかの春は秋合せん
とそ志るしはつ人ふ

藤原後蔭

色乃ちるはとやわひしさ春霞立雨の出れ常のしる

うくひすはなく成るあは　　うせい

こしきしへなのらし風は散色成れはかせてちらなん
常盤花の木はそなく成るあ歌

さくらの花散るふくふ常のちるの色みふ
題　　次　　よろん人さてと

こ海あていさしふゆん春はの常のさく花はちるあ
散色成なふうしへん世中は我身もとふあん物は

花のさいうつりにけるわがいろよ我身世にふるながめせしまに

小野小町

仁和の中将のゝやしきの春の歌合

せんとしらくる時よりまへの歌

うせい

おもひとおもひはじめしかたんらむとにぬるそでかな

さつきやみ山ちかくなれば郭公

よみくつりけるかな

つらゆき

あつさゆゑ春は山へをもとめてぞ雪ふる里の人はたもとる

寛平御時きさいの宮の歌合のうた

春のゝまふつまんとこし物をちるまうゝ花をたにまとひぬ

山ゝにはまうてたるまとふまよりの

やまわけて春の山へをたづねるは雪ふるもとをたづる

寛平御時きさいの宮の歌合のうた

風と春のちとふるわせいとゝ山ゝれの花ぞまりや

さつきまつ花たちばなの風ともに花山ほ

いわくら藤のもとのもとふたちよりとへる

帰るによみておくりける
僧正遍昭
よそにみてかへらん人に藤の花はひまつはれよ枝はおるとも
家に藤の花さけりけるを人のたちと
まりてみけるをよめる
みつね
我宿にさける藤波たちかへりすきかてにのみ人の見るらん
題しらす
よみ人しらす
いまもかもさきにほふらん橘のこしまのさきの山吹の花
春雨ににほへる色もあかなくに香さへなつかし山吹の花
山吹はあやなゝさきそ花みんとうへけん君かこよひこなくに
よしの河のほとりに山吹のさけりける
をよめる
つらゆき
よしの川岸の山吹ふく風にそこのかけさへうつろひにけり
題しらす
よみ人しらす
かはつなくゐての山吹ちりにけり花のさかりにあはましものを
この哥はある人のいはくたちはなのき
よともか哥也

春の歌とて　うせい

思ひつるもの花山へのうちむれてうつるもいろぬひのすみ
ちるはとくすぐるほをよめる

あつさゆゑ春のいろのいろことくもあるかな　ゆうつ

やまひよ常ひさしくうきことをうつるを
よめる歌　ゆう　雅家

ちるもむる花しみはきは常ひもとそはものしく侍へくも也

色ふかの清くこもりかふ山城ちくるに
山川もの花のなれるる城ちめる色

ゆうやみ

むもの桜の水のまふくとあるれは山ちは春もなく侍なる
春をおしむとよめる歌　ちとせ

おしめとも春のあくるはよりはるかへ春ハ
寛平御時きさいの宮の歌合のうた
おもせ

あゝ[illegible]なりけり常[illegible]一[illegible]せよ二[illegible]ひたすらに[illegible]去ハ

やうひのつこもれる日花ぞうわかへを

ゝ[illegible]女ともに成みくるあ[illegible]

[illegible]

と[illegible]女へ[illegible]物といふ[illegible]より[illegible]ふ[illegible]も散[illegible]とふ[illegible]ふ[illegible]

色[illegible]ひの[illegible]こもれる日面[illegible]わ[illegible]

散乃[illegible]成[illegible]人[illegible]

なりひらの[illegible]朝[illegible]

ぬ[illegible]つ[illegible]ものそ[illegible]ちつる年[illegible]去ハいくらもあ[illegible]と思へ[illegible]

亭子院乃歌合[illegible]

[illegible]ね

[illegible]ものと[illegible]成思ひ[illegible]時[illegible]ものと[illegible]ハ花の[illegible]

古今和歌集巻第三

夏歌

[illegible]　淡人きこし

秋やとの池の蓮は花ちるを山かけいまだいろはきえぬ

これさだあそんの家の[illegible]かきのもとにて人まつ夏

うきなかれ[illegible]ちるを[illegible]の歌

紀とものり

袖ふれし[illegible]や袖ぬれぬらん

頭[illegible]　[illegible]人きこす

[illegible]

伊勢

月こそは[illegible]時なれ[illegible]

淡人[illegible]

[illegible]月まつ[illegible]花の[illegible]

[illegible]月きあん[illegible]

[illegible]

[illegible]時[illegible]

[illegible]

きのとものり

高羽山けさたちくれハ郭公柄ちるにいまもなくなる
郭公乃ちゝ[illegible]なる哉けふ聞きて
よめる
うせい
時ちかあやきけハあらきふぬまもまぬ恋せしなさ
ゆくすえ乃いろ井神てゝにて時やの時をうあ
いろ井神ちき高この郭公よりかう者ふれ
題しゝす
よるん人ちゝ
夜山なくほとゝぎす次人あゝハ拘思て我よりふきるせう
郭公ちゝあゝきけハ別りあてうゝ恋しわきる

時なる郭公里れあまゝこの山ハ拘てゝまれ郭思て拘
おりひいたるとまよの山の時ゝ拘ちあてうふく
ゝ[illegible]ゝ波ハ人ゝぬ郭公ちゝ乃ひつをうん
ゝ[illegible]の山郭公拘ゝ[illegible]て作ら海さゝと拘なのゝ
ゝ[illegible]ゝに山へゝる郭郭公ちれうゝ我拘ハ
みくふ乃まち
[illegible]ゝ山時ゝるゝ[illegible]ん我世中ゝ[illegible]
寛平ち時きさいの乃ち秋合のうゝ
きれゝゝ乃ち

さみたれに物思ひをれは時鳥夜ふかくなきていつち行らん

よやくらき道やまよへる郭公我宿をしもすきかてになく

大江千里

やとりせし花橘もかれなくになと時鳥声たえぬらん

きのつらゆき

夏の夜のふすかとすれは郭公鳴一声にあくるしのゝめ

みふのたゝみね

くるゝかとみれはあけぬる夏の夜をあかすとやなく山郭公

紀秋岑

夏山にこひしき人や入にけん声ふりたてゝなく郭公

題しらす　よみ人しらす

こその夏なきふるしてし時鳥それかあらぬか声のかはらぬ

ほとゝきすのなくをきゝてよめる

つらゆき

五月雨のそらもとゝろに時鳥なにをうしとかよたゝなくらん

さふらひにてをのこともみきたうへけるにめして

時鳥まつうたよめとありけれはよめる

みつね

郭公なくなくさとをこえぬれば
山ほとゝぎすのなきてすぎぬる
つゝ敷さき

時鳥人まつ山にかくれゐて我うちほをゝ出るこゑ
なるらん
きゝそめし　たゝ一こゑ

むかしへもとゝきすなきつゝ時鳥なきさつゝ
郭公乃なきて我なくこゑ
うつね

時鳥ひとこゑなきて世中をあけぬるかとゝ
なるらん
きゝそめし

傍正遍昭

ちはやぶる神のゆるしにまかせぬ人ハ霞を
月乃花ゆゑ
よみ歌

みちやゝ

霞よりまこと雪のつもりあけぬ
ゆるのわたりをとこ霞をしのぶ
たつたゝ乃うらゝ我ゝみく

ほうりつ院

ろうば

ちゝはゝをすへとうゝ思さまよはかりとけるあるとき
夜の花

うゝ歌月乃つこもわれ日よめ歌

夏と秋とゆきうゝ宮ゆかりひちいかうこすゝしよ

風吹ゝん

古今和歌集巻第四

秋歌上

藤原敏行朝臣

秋立日よめる

秋きぬとめにはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

秋立日うへのをのこどもかものかはらにみそぎしてうたよみけるとしのなかの

ふきくるかぜをあきかぜとおもへばかすがのの

ゆきまのこほりとけのみづ

秋の風のすずしくもあるかうちなびく春の柳を見るにつけても

秋立

秋の初風

昨日までなつとおもへどわすれにしあきのはつかぜ

秋風の

なつのあまぎりたちぬれば

秋風ふきぬ日をへぬれば

久方のあまぎりたちぬれば

秋風ふきぬ

天川もみぢ流るとはるかにもいはでぞ思ふ

秋の夕

秋ぎりたちぬれば

天川霧たちわたりかりがねの

寛平御時

寛平御時なぬかの夜

ふるあめ

やまもとの

わがせこが衣の秋の風ふけば

昨日までなつとおもへどわすれにしあきのはつかぜ

秋風の

秋風ふきぬ日をへぬれば

久方のあまぎりたちぬれば

天川もみぢ流るとはるかにもいはでぞ思ふ

天川霧たちわたりかりがねの

寛平御時なぬかの夜

ふるあめ

やまもとの

[illegible]

[illegible]

藤原[illegible]

なぬかの九月のあるまの歌

九河内[illegible]

[illegible]

七夕のぬるまれなるすがわら

[illegible]

題[illegible]せい

[illegible]

源[illegible]

[illegible]

やまのたるね

[illegible]

題[illegible]す

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の月の光[illegible]

人のもとにまつ秋をたれかはわくらん

なきこゑをきてとはまし

藤原たゝなさ

蓮にすむ[illegible]の秋のよもすがら思ひ[illegible]

見る人のみ[illegible]家の奇合のうち

やゝゆめ[illegible]

秋のよもあくるをもとゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋くれもとにあまたの養ひのあやをかなしみ

蛍のよハ[illegible]

きこゑ[illegible]

秋のよもすがらとまるあ[illegible]

にのきのよ人まつ[illegible]

[illegible]

ひとしの[illegible]

日くれ[illegible]

[illegible]

[illegible]

是貞のみこ[illegible]家の秋合のうた

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山里は秋こそまさりけれなれはよの秋しつ

たつた

おく山の紅葉つたふ時雨の声きてはもの思ふ秋の夕暮

題しらず　源人しらず

鹿なくなるこのひれを振はは見るの山もとゝもみ葉のふる

秋萩をこそ見なく鹿のあはれをもかけてはなくなるこゑ

これをこそ家の舞合とよめる

菅原やすまさ朝臣

秋萩の花さかりなるをのの人の鹿はなくなるこゑ

むしのこゑ　ほのかに聞くる人の秋のよそ

あはれ　きこゆるこゑにこそ

鹿の秋の夜ふけぬるこゑ　花ちれはの人はなれはの人は秋ふかし

もしらす

あき萩の下葉ふるとはなくしかの人のいとなる

鳴わたる鹿の涙やおちつらん　物思ふ人の秋の上の露

萩の露　玉にぬくとはなれはなるこゑ　人は秋なるこゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まつわらぶ　　[illegible]

女郎花秋の風ふきしをれたるにくらひたん

藤原[illegible]朝臣

[illegible]なるそのあつとかきさ女郎花のまれらうまむひあ翁ゆへ

たち秋ふかぬ物ゆへ女郎花むらさきまさるつゆ

つ遊義

素[illegible]つ[illegible]ふ[illegible]ゆへなのひ女の花むらさきまさるつゆ

[illegible]

人のふるとやくるしき女郎花秋寿にのこちかくるん

ひとわのこゆもむるとわかを[illegible]ゆへ女郎花とにうへ[illegible]

物へまるるに人乃家ゆ女郎花

うわうる秋みくるの新

[illegible]

女郎花うゆめ[illegible]ゆ遊ふかあれる前ゆ秋花

寛平[illegible]御歌人所乃なのこともにのゆ

[illegible]人[illegible]ゆ[illegible]時[illegible]

みふ秋よりんくるほついそよりあふ

平さうてん

[illegible]

こ袖さうのみこれ[illegible]方合ふらめ風

[illegible]

なに人のきそぬぬ[illegible]ふちうの風を秋とおの人をかふと

[illegible]ちはう風をすまんそ人[illegible]りうの風

ほうゆき

やうりせ人の[illegible]

[illegible]

うせい

ぬ[illegible]

平貞文

[illegible]

寛平[illegible]

あわりうれもや風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　みゝ人〳〵

みとりのもとの夢とゝ寿ぐ秋さゝの花にうゑ

も夢見花のひとくさ秋の山思ひ立ぬ人ゝとゝ

月夢に見けすんあさ夢ぬまその花うつろひぬと

仁和乃みとゝ見こゝろおもしまゝ

ゝる思ゝ夢ゝ花を人とゝ花ゝ

ゝゝゝ見ゝ服うはゝの夢ゝやゝゝわた

まゝゝゝゝ時ゝ夜を惜ゝ秋ゝゝ

おゝゝん物ゝゝうゝの清いそゝよゝゝゝて

まゝゝけ夢　傳西遍服

里ハあれゝ人ハゝゝにゝゝやゝゝゝゝ夜ゝまゝゝきゝあゝよ

のゝゝなゝ

古今和歌集巻第十四

雜躰下

見負の人こゝろの家に歌合のこと

文屋やすひで

吹ちらす秋の草木はこゝろ〻にあらぬ色をぞ見せまし

紀のつらゆき

岩もる水もこゝろ〻ありて秋なれば

秋の哥合しけるときのあれ

もみちをぬきちらす風の山川にいかゞ流れのきはまりなく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いきとうちれ紅葉をみてよめる

ほう[illegible]将義

ちりやすく秋のいろなりみてはなほあかなきうつろひの色

元貞乃内この家に哥合にしるあり

たつ[illegible]

雨ふりかさなる山の紅葉を行人の袖にうつるか

寛平御時きさいの宮の哥合のうた

よしひら[illegible]

ちる紅葉ちりはてぬれはあかなきにとまれるまつ

色まさるふるまつ山をきりわたる時さかり山をきりわ

乃ぶそわたる紅葉をくるめる歌

きよとも乃わ

たつたあ乃紅葉ふれはる秋雨のさかり山をたちかくらん

元貞のみこ乃家に哥合のうた

ふみ人さ[illegible]

秋雨はけさはふるとも山のもの紅葉をうつしもてん

あきさのうたとよめる

坂上これのわ

[illegible]

人のせんさいをもとひつくそうへる

[illegible]

荒原なりひさの歌

うしろうへハ秋なかの時やうつんもちるあはれ

[illegible]

[illegible]

やう〳〵過ぬの歌

久〳〵ぬきうのよふて[illegible]菊ハあまつかりとのやまをれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きてくうあたりけ毎にまあ数

すりいしの丸殿

秋風の吹上ぬるる白菊いもるあるぬ波乃よりう

仙宮ぬ菊城ぬの人のいく新るか成ぬ

素性法師

ぬきそかひ出城の菊ぬ露のまふいつ〻中年を数へ久ん

菊の花乃もとふ人のひとまそるる成よ

みつね

花ぬ〻人まつ河ハ白ぬ乃袖ぬのぬ中あやまる紅

おかの上乃池のうたに菊うへる成ぬ

ひとも〻思ひ花を折さの池乃ぬこ花たまうん

世中ぬ〻ふ〻ぬ思ひ〻る折ハ菊の花

をみつね

つ〻ぬき

城の菊白ふ〻ハかさ〻ん花ぬ〻ぬ乃ぬ乃を

白菊乃花城ぬ〻ぬ

丸河内〻〻

ん〻あ〻ぬ〻ぬ花ん〻ぬ表のおきまと〻ぬ白菊の花

これ〻ぬ〻ぬ乃ぬ合の〻

[illegible]

仁和寺に菊の花のうつろひけるを

たれまつまとあかせるなかりせば秋をしらでやすぎなまし

[illegible]

秋をしらぬ時のあるべきにもあらぬ菊の花のうつろひにけるを

人の家なりけるを菊の花をうつしうへてかの家にやるなり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

龍田川紅葉なかるゝ時雨の雨ぬきちらす山の錦を

みハてらの川もみちはなかるゝ時雨ハ人丸哥

色ゝくさ〳〵ものゝ中に紅葉を取分て山ゝ

秋風ハあらしにあらぬ音もなし

あきハ哀なる葉ハ色にいでゝ

ぬれぬれとやまゝ人紅葉のみちゝ通ゝ

雲ハ月山へ入やまゝ

風の音ハ山にみちゝ

せきゝ

紅葉乃ゝ落のぬきちらす山の錦乃をれ折

うつるんの色乃あれけるたゝひ久く

ゝ乃人

傍山遍照

ちゝ人の色ゝ立ゝ

二條の后乃ゝ

清原ゝ

をうけ

紅葉ゝ

ゝ

せい

紅葉ゝ

なるとのゝ月朝臣

ちはやふる神代もきかぬ立田川
からくれなゐに水くくるとは

うれたきよみこの家乃哥合のうち

ゆきの乃あた

あきつるかすてきて世とくゝ世にあれとのこれる
たつみ色

神なひのもりの乃山茂秋乃ハ錦ちらさぬ
きつゝ山ふもとの人ちをしらしる

時ゝとゝの所　ほゝゆゝる

ふる人ゝなくて数あるおく山の松葉ハかりそ錦なりける

秋乃ゝ　うまこのも

立田姫たむくる所神のあれハ秋のぬさとちるめ
をのといふ所ハ所ゝ秋ハ紅葉ちるゝ時ゆゑ名付て
ゝ所

つゝ哥

数乃山ゝ紅葉ぬさとたむくれハ神なひ山ハ
神なひ乃山茂もそれてたつゝ川を
もゝちはやふる神乃なかしる秋
きゝ川ゝ月ゝ乃ゝ

[illegible]

寛平御時きさいの宮の歌合のうた　藤原のおきかぜ

白浪の[illegible]

たつた河のからくれなゐに水くくるとは

[illegible]

坂上是則

[illegible]

志賀の山ごえにて

[illegible]

山川に風のかけたるしがらみは流れもあへぬもみぢなりけり

池の水に[illegible]

[illegible]

うねね

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たゝらね

山田もる秋のかりほのいほりにやせしかのあれまくら

影さゝぬ　まえ人一ゝ

ほとゝぎす山田をもるかりほにはあれにしあれはかりまくらかな

かりほの田もるかりつゝ

きゝて山ほゝとゝぎすなくなり

ほとゝぎす

[illegible]

うせい法一

寛平御時のきさいの宮の歌合のうた

きりゝす秋ゝの田川もみちまさりけり

山ふ歌をかりもさそうほのかなる

[illegible]

松浦宮物

[illegible]

秋のゝ[illegible]

よ[illegible]歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

角兼をくれぬ山ぶきの花のあるうちは秋はくるとん

おなじほとゝぎすの日すがら

人うつ

花ゝゝうつるゆんもみちゝ成ぬさたもなくて

秋はくるわ

古今和歌集巻第六

冬歌

[illegible]　[illegible]人丸

[illegible]

冬の歌とてよめる

源宗于朝臣

山里は冬ぞさびしさまさりける人めも草もかれぬと思へば

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

志賀乃山こえ[illegible]

紀あさみち

白雪の[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆきの木ふかみどりなる枝をめる歌

ふるゝ遊義

みるまでもわすれぬをこそまもるなれ花とぞ思ふ雪の白波

色まさるのべの草ゝ海ゝ舟をこぐ時

ゆきのうちけぬ枝みどりなる

板上これ乃を

秋ゝ雪の月とかるまさるゝ井戸に水まる白雪

題しらず　後人しらず

くれなゐのうへにみもるるけしき雪ふるかみ雪ふれるかな

梅の花ゝ散とも雪にみまがふ

元奇いまるゝ人のいとゝきのもの人丸

うゝ寄地

梅乃むら雪乃ふまを分をよめる

小野ゝ毎ゝ雪ふる歌

花乃さ雪にまがふ雪にまがふ雪ゝ白人の袖

雪ゝ白ゝ乃梅の色をよめる歌

梅乃花ゝ雪ゝ白ゝ雪ゝ白ゝ

ふるゝ雪ゝ

雪の朝わらべ共の
紀がもとの
雪の降て来ることに
梅とまつ
人を
うつる
わのまゝ
ゆ
乃
ふるめ
あ
夜
ゆ
乃
ふるめ

寛平時代さいの京乃方合のうた
ゆ
乃
ふるめ
雪降て
時
ゆ
乃
ふるめ
はるみちのはるよ
歌
たゝ
紀乃つる
行幸

古今和歌集卷第七

賀哥

題しらず　　読人しらず

我君は千代にやちよにさゝれいしの
いはほとなりて苔のむすまで

きみ　　せん

ちとせ海の浜のまさごはかずなれど
さゝれの出てしなれるなるべし

なる

わが戸にはやちよにかはらぬ
ためしとて君が代をこそ
かけてまちつれ

なる

仁和の御時僧正遍昭に七十の賀給
ふる時の御哥

僧正遍昭

かくしつゝもゝとせ経ぬる
人なれど
なほ
君
に
ぞ
ま
ま
ほ
しき

仁和の御時に
なほ
君
に
ぞ
ま
ま
ほ
しき

をけの
やう
なる
物
に
花
を
さ
し
て
人
の
賀
し
給
ふ
時
に
よ
つ
て
奉
り
給
ふ
哥

ちはやふる神のまをしの
かはかぜにちとせのさくらまきぬ
かも

かはかぜ

千歳
の
ま
を
し
の
川
の
ほ
とり
に
て
人
の
賀
し
給
ふ
時
に
よ
み
給
ふ

東歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

在原之ゆきひら

こゝろにあらぬ人をこひるとなげくあまの袖にぬれつゝ

よしやくさのいとなりとても

もゆるおもひをしらずやあらん

百代をまつの末にいとひつゝちとせのかげをすまんと思ふ

四位のこゝろざしをたゞ大なる海原の四十余

しらぬ海の底にしづみ侍りぬ

春風のかをるさくらの花ぞ

あはれなりのゝ中にまつ人

山ざくらをりはやゆる梅花心のゆきにおもかげ

夏

ゆつゝさあをゝ鳴くゝ時鳥

秋

信濃の浅間の嶽に立ちのぼる

まがるゝくさりの川霧

嶽にたゝるとゝもゝ山ゝ

冬

白雪ふる〳〵時ハみな〳〵の出て風をたちを
春立のむまれまつ日を〳〵待ふるまいわて
うめ花　曲行薄氷ふる〳〵朝れ
寒だるきうひ〳〵出ていつるひ〳〵ふる時なくて
白雪ふる

古今和歌集巻第八

離別歌

題しらず　在原行平朝臣

立わかれいなばの山の峰におふる
まつとしきかば今かへりこん

すがはらや伏見の里の秋の夜に
こゑうちそへてなく人を思ふ

かすがのゝ雪の下草をしなべて
なをうちつれてみちのくにけり

まきのとゝ

たちわかれいなばのやまのみねにおふる
まつとしきかばいまかへりこん

あまつかぜ雲のかよひぢふきとぢよ
をとめのすがたしばしとゞめん

むすびをきしあだなりけりとは
いはじ

たちわかれあふさかやまにかぜふけば
こゑうちそへてなくとりかな

人にあふさかやまにかぜふけば
こゑうちそへてなくとりかな

人にあふさかやまにかぜふけば
こゑうちそへてなくとりかな

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一にしみて侍りし歌

春

あさ霧ふかくへき山とたのまくに思ひしらめる花なれ
きれむとすてるあつまをとる時
人の家をやとりはつさいてとて
まとわすれしけまくに世のうそをいとをを
けふ
えうきてぬと空よ命あるに我をとる人やとはぬ
ひとりてなる人のあつまれうへ

みち人一ひ

まとわすれふかを塩とそよあ
ゆうやみ
雲のふもかふ人のをとれとかわ屋と人をみ遊りも也
ともものあり川まへまるとる時とるあ
ふ
白やとれとるふ月を世をぬとてたひ
みちのくまへまわをる人とをみてつり
り
白雲の色へかさふ塩ちとと思ひ人世へる服

人をまねくとき

われもとまをいそぎゆくみちのくにんん

ほのぼのと秋のけしきの人のこゝろにふかまりて

年へて京にまうできてみくわるる時ふ

ちめぬ

九河内うつし

ゆく山ふかうかあるとあるひとまぬふにしきれ

うれしくまをわるる人をみてつりしる

ちりぬるをわれ白山のゆきうへにあるぬ

をとゝ山わかちる人をわるあれる

ほとゝゆき

藤原のちりけるかるもの

なり月乃つこもわ来ふまわるるふ

うへのをのこともけうひろる法

いそぎあふ

ぬちいれりもち

もゝとゝふかあれとめあ春霞の別ふやあぬ

年もとゝ乃ま

姫霞共とゝふ立いそかわれふ姫ぬ思ひまひやまら春

源のさねつぐ

ゆあんとてまうわらは

時よりまさりたるものとなりて

ものあり

志賀め

いのちをしかるべきものなれば何の別のなかりけり

やまたのさうわかのひろまへをくわふ

人〳〵まうさるるやうにて別まれなり

ものあり

源さね

人間はかなくはかなくはいきてといひていきさうなん

とはかりくわかるたちに

藤原のうねもち

まうさるるさふ人の方めしあるまゝに

藤原はるなりむさしはけり

まうわらる時よ坂わにあふうをこゆ

とゝらるる

つゝ松さ

つゝまさるまゝゆくかあ坂り人のめるふこゝろ

たかゝのちつるうまへまうわらるもまれ

ものむけりうめ歌

藤原ゆきすけの朝臣

雲ゆくこゝろ乃白山つゝ移ともゆき共まふく花ハ風

人乃花山を海うへきて夕さりつゝ

ゆへ乃なんとこけ毎時よ見る

僧正遍昭

夕暮乃まゝ花ハ山とみゝ乃なんとゝ所ハ

山ゆ乃りわてゝ乃ぶ白まつへきて人ゝ乃

ゝ乃教法いそ乃りよ見る

法仙法師

乃ゝ乃を山乃桜ゝ海乃せゝんとあむとあ一ふ乃のまゝ

うまんのみゝ乃会利舎に山ゝ

乃りわて海ゝ乃ゝ風ゝ桜乃むのもとゝ

よめる

僧正遍ゝんせう

風ゝ桜吹まゝ乃ゝ乃なん花乃まゝ乃れゝ立ゝ乃ゝ

法仙法師

ひとゝ乃ゝ乃ゝ乃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月夜とりて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今和歌集巻第九

羇旅歌

もゝしきの山のこなたに月をみてはるゝ人なき

安倍仲麿

あまの原ふりさけみれば春日なる
三笠の山にいでしつきかも

なにしおはゞなつかしからまし
物思ふ事はなけれど
乃とり鳴くあづまの国にわたる
なにしかはゝ思はざらまし

あしたゆくかりのこゑ
たれをかのこゑとかいとゝ
ゆくかのくれ人もものをもふ
ものとなりて月のいとはなれ
ぬるをみてくるまをとなん

かすがのゝ
おなじ月をみるとも
のりてゆくこゝろ
つくしまを

小野たゞむら

わすれのかやうなりけるさきをなげくとて　永

題しらず　ちかひひとしらず

高こいそのうらふく風もしらせやま

ありくらゆるの間のあさ雪　略るゝゆくゑ

こゝろ　雪の人のいくすぢのあとぞ

あはまほしうらみ人とすぬ人ひとりぬるうち

いさなひていとをもこゝろ　三河の八橋といふ

所よりあれわうらぬるよりもかはのほとりに

杜若いとおもしろくさきたりけるを

見て　在原業平朝臣

かきつばたといふ五つのもじをかしらにすゑて旅をとよめる

唐衣きつゝなれにしつましあれば

はるばるきぬるたびをしぞおもふ

せきもりの雲とをきかはのなかれの中よ

あるを南田川乃かとわいとてあのいを

をもしらずかわくれはをり川乃かとわに

おるをのて思ひ色れたるをわかくるもの

きかるをふるをと思ひてをるあをるに

わたりもわたらぬ船のれば日くれぬといひ
くれはの舟のわたりわたんとしけるに船
人物をひきくして京へ思ふ人なくしも
あらぬをまるおかをかさねをもとと
河内なるきの川のほとりにあるひとわ
京へ度々とあるを聞てみる人こそ
ら涙をもてしもわにこれハ何をうれし
とひとれたこと祈ぬん者ことわといひ
をあるたちの歌

春の日おりくいき事とう歌を思ふ人へ
題 しら波 もん人しゆ
きそ人行方をしらぬ人をつまてにしらぬたてを海へ
しら波ハあ波人男女も波あ人のくるへ
まうわ家をおとこ海をわいるをすふいち
みまうをにこ祈い女ひとわ京へうへわ
くを波をよあへるをの時うを波きて
よめ歌とをんいふ
あ波まれうをわ京へまうてくとをを波て

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時ならぬまの川といふ所乃うへ此かとわに
おわりのなとのこまをうきいてよみこ
乃いひそめしかわしてのまれうゝふ
ふうるといふん歌よみこうの月八させと
いひそれそうめ歌

あわ乃国あわひゝの郡に
みこし歌をあ川乃ほとりに我八きなわ
せ原なわにそれとゝふ所なとよめる所

きうのあわつま
ひとゝせ一度きまひ君まてハ夜とう人とあとう思
紫藤院のふゝにおりまし寄る時よたむ
け山ふそよめる所

すりゝ丸歌
世ひハぬさもとわあへひむを山お家の海神のまゝ
来住法師
高ハつゝの福もきゝ今ふ紅葉にあ寄る神や
あんさん

古今和歌集巻第十

物名

うぐひす　藤原とし[illegible]の朝臣

花のさかりに[illegible]ひとのもとにまかりけるに

ほとゝぎす　在原[illegible]

[illegible]

うつせみ　[illegible]

[illegible]

[illegible]

たちうを

[illegible]

をたまれの水　　ゆうもの色

みちのくにみ滝ちひらの城まれさまとうんん

やはうきの水　　ちみ人さ次

[illegible]

あつひうう

かくりわあつひのまれたる人をいつしと思ふる人を

人ゆへのちにあつひうるけうとうを思ひふ

くたる

[illegible]

ちうひ

我ハくさうひうそうつ[illegible]

なみ[illegible]

白雪を[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やまの

部とうとうやまのはあわとはみけとたくはとも
あくまも花　よるひとしほ
うつ時のりふきとにはむ花とものゆくえあすかの雪
りふくさ　ふりやぬ
うハ色の袂になるふりふくさ　うつたるもあるぬを
ちりわこけ　たりむれとしほ
花のとハてひとうわこけまとう寒うあるる
ふりこけ　ちりこけ

年あつ山さき

あとそ寒をたのむとうるとうれ物まとりふるのへ乃色
あたこけ　けりのあかりさて
ちるとけるふハ家をゆく久り月吹うへを寒の山風
わしひ　まいせい法
煙ちも遊とそ人うぬ嵐れ城れわひとふつけてめきん
さてまつひハ　そせ城て
きこ屋めのと
いさてめふ時まつまふうひハめるふそ城ハ人よみて
ふ　ふつめ　そ屋ん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋くれば月の光と花ちりてわが
　　百和香
　　まんひときてに
花とにあらぬちりぬるかをとぞ思
　　すみなれ
　　こけの庵
雲のはたてかすみのちりぬるかをとぞ
　　なをさ庵
　　八やえ山ぶきの
ゐ飛いつるかりてにこそ流川なをさひん河やすこ
　　ちまきさ
　　大江千里
の跡まきれなくふるあめにぬれぬ人のこゝろ

　　ゆ
　　ゆ
　　ゆ

古今和歌集巻第十一

恋哥一

題しらず　よみ人しらず

郭公なにをやさつきあやめぐさあやめもしらぬ恋をするかな

素性法師

きりぎすなくなる白露のしたにおもひをかけてなくらん

紀貫之

夕川いりあひたつころ人を思ひてなくめり

藤原敦忠

白波の流れさゝ〻不行舟も風うたゝ荒きゝ〻成る

在原元方

吉野山をとゝにきて清くお坂の雪にゝ年をふる

立ゆゝあゝれとゝ思ふ雪にゝ人ゝ心をおきつ白浪

つゝ遊き

世中いとゝうきけ浪風のゝ小舟ゝ人も乗てゝ

出近乃むまきゝ乃ひをゝ日もゝひさゝ

ゝゝゝゝ海の下にゝゝゝゝ女のゝゝ

ふみゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝ

[illegible]

つゝ[illegible]

山[illegible]

題[illegible]

たゝ[illegible]

初[illegible]

九河[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]川の山さてこそ[illegible]
[illegible]川いかゝわたり[illegible]
滝つせの中ゆもちらいあ[illegible]
山さてこそ行[illegible]
思出るとゝ家の山ゝ[illegible]
人こそ[illegible]
秋の[illegible]
[illegible]梅の[illegible]
[illegible]の山[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

伊勢の海に釣する蜑のうけなきものゝ心ひとつを[illegible]
いさの海のあまはたゝかわるゝ[illegible]
淀川なる水上成ゆくん物思ふ時の[illegible]
[illegible]
[illegible]

淀川花なる所うるはしき家さきうつくしうこゝろ
ゑはせ八重八重いけのとゝ成まうわうとれ人をうらぬ物哉
かつまた夫よりのぬ我身はかく海の川のうまれ流れ
うをひの系となるうれしきひきい流れ下にゆる所わ
ゐきせよ入るあひを我袖の海のうらうへまし物を
なれ人をもうらぬ浪のうへ乱れのゆ来る所
あもはさりく入江の白波のさとりや人をおくらひん
人をまつ思ふ我身よりするあふの山ゝわ成れ
とふと我身をもきこゝ山のうれを人をとゝ
逢坂のゆ[illegible]我ゝく人や逢ゝ坂のこゆん
逢坂の関よなる所いつゝ心よりひとゝ
うき身はよう人八家我ゝ物ゝ心をゝる人のふき
打絶てよりん人をゝ山ひ我こゝ人ぬ山いわゝ思ふ
心人をゝ物ゝかゝひ苦しき物と人をゝ
ゝゝ所ゝゝ我ゝ所ゝ人ゝ
ゝ所ゝ消る所の所ゝ我ゝ心ゝ我ゝ
あけゝ我ゝ我ゝ人なきゝ
夜半のゝ我法ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今俳諧集巻第十二

恋哥二

[illegible]　小野小町

思ひぬきいもゝ人のたゝんゆめとこそ見えぬ[illegible]

うつゝとも[illegible]人をたゝ[illegible]

いとせめて恋しきときはむしの声[illegible]

雜哥

[illegible]の月にふきもけきつゝ[illegible]人をうゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

なのこまちのもとにまかりけるに

あやめぬきてゆきのあしたに

[illegible]

おもかたち

[illegible]

[illegible]

寛平后宮さいの宮の方合せしに

藤原としゆきの朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なのこまちのうた

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うきくもしぶかぬ白雲はしたゆきてよ消ぬ物思ふとなしる

藤原おほのの親

君こふる涙のとこにみちぬまは袖つくしとや我はなる

こゝろ有命いまもやひろと心ふかき底をしらねばとはん

まひあまをいとのそこにたゞと思へば袖をとい寄る人ぞなき

みな人しる

もゝなくさ神さも岩もあるを思ひいつらやいとまん

恋ゆゑ絶たるはかなきあさのまくらはかりぬ

紀貫之

君こふる涙なくハ唐衣むすびあてわかるとをしらん

よと友よりれて紅涙川みをこがれぬみるハ

袖なれ涙や恋乃ハんよりもひろかるこゝろ

素性法師

うらみてそ袖にもとゝ人をうるよりあるの家ゆかをろ

藤原ときさ

袖乃涙なわさい底ゆのひる袖ハこゝろ

[illegible]

大江千里

我こゝろ物やかなるさ都をとゝすくるゝ[illegible]

さ月やま積をさゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人を思心りてかつ孫宮あるのもとにまうでて

たてまつる

嫁院のかぎりにすめしまうでくる人の志をうけん

はるばる遠き

風もうるおいぬ雨の雲に岩とわとふまさるる我

色まさるとふ物思ふ人はかりなる

まつとはまつ菅原の山の桜花人つてよりの雨まさる

やうひとりてたうひなる人のもとへ

人まりてせりあきて後はかりなる

露なりぬ人を花をまつめて風ふとふ物思ひつく

郭公　返上これのもの

我恋ふるくるる乃山の桜花まつ花ちるまさらん

もしもなれおりわ

名川のしへいとふ我なるまやまとてまつれる恋

うみも

たまつさを孫とてめ宮芳ふまつる恋も我いすれ

とも乃ま

青くよぬまそ我あるかち夜ふけて思ふ所のまもはし

家居のさやの中山中くよ何とう人を思ひうめきん
さきさくの花の下に海いあれと人をうるあいもひとうる
年をへてきくあ思ひのうるうるうれ秋ハ移りゆくを
ひさ〻萩を

秋ふいきてあ山ゆよりのたくうとゆ心うるひ行
花のうちてうくゆ秋ハ秋のこうう色まうれ
白玉とみ〻ゆ秋も変ぬまいうう秋ようつろひうるを
みつも

文思をあいうひうん心〻我も思ひはぬうう

たくうも

風ひけ歌よりの風白雲れてはまるあさ表の心う
月新よりの夏我うる物ふ〻はまなき人も寝ゆん
ぬうやふ

玉〻おいうるおいたり世事れ常なれ物とうひ新も
夢〻く

つの世の旅波のあれもうるはたうる玉人うるゆや
てもまて月日よりうる風うあ表のうういうる
人うまあ思ひのうきうひれ我欲をい秋のうる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今和歌集巻第十三

恋歌二

やまひのけいらうわさのひと人もものゝ
いひそめしのちふるのうわさをるようにつゝ
りしころ　　在原業平朝臣

かきてもきえぬものとなりそよる波のうちよせかへす
業平朝臣の家にまかりかよひけるをんなのもとにつかはし
けるうた　　とものり朝臣

ながしくしの浦さわぐ海士なれやあまのつりなわ

かの母ゝかりわて迎ゝにとゝ歌

なわひゝの朝に

あさぢふの袖ひちぬる涙川ながるゝときをいつのまん

郭公次　よみ人しらず

ほとゝぎす鳴くこゑ聞くとうちつれば心は君ぞ恋しきを

恨よ行てはまあるを物かなみまくかりさいふかれて

あるあるのみる白雪とはとわかい我さへ恋るめへき雨

山ぶきいあふ人のいとく枝をゝ人の花ゝ哥也

なわひゝの朝に

梅のはなしあるに袖ふりもはらてこゝろのひろまうる

小雅　小所

人くるあなき我為ゝ様とゝ様やゝれ為ゝ花ゝあたゝ

源宗于朝臣

ほのゝとひらけ花ゝ青めるいまは見ぬ日のなくやゝ人をゝ思ふん

ゝ乃ゝて人ゝ

ゝ雨乃はまゝ別ゝわ暁ゝわうき物ゝ思

あわゝれゝ

逢ゝすれなきさふゝ人ゝ涙なれゝ恨ゝのゝう立ゝ

[illegible]

[illegible]

陸奥よりあらいそのあたりの川をたづねたづねてみちのくにあらすを

あやまちてまつたなきさんたの高河をこえてなまんなるよ

人いなき我いなきみの時れい者もいとひなく成いん

もとろこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題しらず　はるゆき

志のゝめと志らしき時に空に月はなをさやけ
き

旅人たちて

志らてゝ帰るこゝろ道はの名をゝるに分たにあ
ゝ

をのこゝろ

秋乃夜もあけぬるかとおもふくもゐ

九河内うつし

なりにけりと思ふたに着くるわかの人ゝ共はのなれ
ゝ

よみひとしらず

志のゝめ乃あけぬるくるゝゆきにをのゝ名なるまつ
ゝ

為尓國卿朝臣

ゆめとこそ思ひなしつゝ過ひにけ

寛平御時きさいの宮乃歌合のとき

しらゆきの朝臣

あけぬとて海ゝ志ほ乃ゝ面に波をゝりかけ

題しらず　躬恒

志のゝめ乃あをゝ乃ゝ面に数ゝまつるゝ志ら雪

よみひとしらず

[illegible]

[illegible]

[illegible]

見わたしてみるそらのもいつるのひき
みとわ川をふもり抜木引れていふせんとうのひとくらんん
芳野河みの心はやくともたれきふはそうとう思
えてくいたてて我思へむ義の孫するの衣さまいつる爰
をのくちをの勢

花をときかりよいそくひいる風こをゆひもれ紅葉
たちくるれきてるたきのひまあひを井わ
くる女の浮よりわたせをわくる
淡人しく次

思ふちひらかくうえ　おいたまふうへをつち後
たちくるのきまま
返
泣くる流よ袖のうちもちふぬまへちらくるこうきあ
鄭しくを　こまもち
歌まはさもうあくめ爰に人の我り海とたるうもひき
限なき思のまにくるもこ安爰流をさへま人いとしあ
爰流まはあも爰ある寺かよへたうつまひとあくしこと
あくも
とうえ人きくく考
おりへとも人ぬきくのうえ川とみなくくえうる流

たゝ川をのゝ[illegible]

寛永[illegible]時きさいの宮[illegible]

[illegible]

題　[illegible]

[illegible]

[illegible]

山[illegible]

[illegible]

[illegible]

おもかけ[illegible]

平貞文

花ちる[illegible]人[illegible]なき恋を流きあへしかるかな

[illegible]みの人しる

風ふけ[illegible]の松[illegible]

このうさはあはぬ人のいとかなしきもの

人まちがほなる

池[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢

[illegible]

古今和歌集巻第十四

恋歌四

[illegible]　[illegible]

陸奥乃あさかぬまの花のかつらの人よりもやはらぬ

あひ[illegible]恋[illegible]事もなくしほ言に成人をきくへ[illegible]

[illegible]

いつの秋かなにみちゆきまさりて思ひの色

藤原乃[illegible]

君とのみ[illegible]

義ましたまふのといふと洞のく我面影さへぼうの花ハ

ふるゝ人〻しる

石ゝ打水の白波立へしわかくるゝみあのひもの氏

いせのあまの釣舟なれやうつくしきふるに人をあくがるゝ

ともなりて

吉野ゝ山のひく山の桜花ふるもあるぬ是ともの氏

心をうつわあき物と思ふあらほりのうしやまうる人

ぬるやよ

九河内ゝ

ふれそんなをいとてゝ高ふるもゝ人のありかゆゆ

ふるゝ人〻しる

あひの川ゝ世ゝとも思ふあそん人を之所

寛平法皇ゝ

思ふ事ゝ象のゝ物をへてゝ

見ゝと

小塩ゝ表ゝ

みいるゝたまひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

このごろいかほどあるべきことあつまりて
ものふかきひとなりけり
あるひとのもとにこしかたのことをいとなつかしう
思ひいでゝ
いにしへはいまはかなしかりけるとかなん
四人のこどもかのくにのかみにてくだりけるに
藤原敦行がもとのなりひらが朝臣の家に
ものがたりしてあるまゝにこのうたをかきてやる
ふるさとにいかばかりかはなさくらん
ちりしがごとにあはまくをしみ

在原業平朝臣

かたくなるこゝろはなにかはなにもまさる
ある女のもとにしばしばかよひけるを
ねたみたりけるをとこのかよひけるをきゝて
みちのくにまでつれもなくなりぬるものは
なにはがたみをかくしてとこのまにかくしてのちに
あかぬなかのひとしほまさりけるとかや
なりひらの朝臣
かたがたにわびしきたのみをかけてのちはものを

題しゑ

よみ人しらず

秋風をいとゝ思ひぬるまたのさよ
むしのこゑゝかまびすしかぬ心のうち
しる里にしられをたゝ時やたゝふもはなちろ
いそ人ゝまれにうれ月雲うつんいとゝ
ゆゝしな義世ゆをいとりわ人の雲ゝ
いとりわと思ゝ雲ゝと今ゝ思ゝ我いたのん

素性法師

秋風に出れまのゝ月へ人の心ゝとゝ

寛平御時きさいの宮の歌合のうた

ともゝ乃ゝ

しゑ

雁のこゑきけばかなしな夜ゝふけゆゝ人のゝ思ゝ

しゑ　よゝん人しらず

空雁乃ゝ人ゝのこゝろ秋ゝ空ゝ
ゆゝくゝ思ゝん雁なゝ夜ゝ
こゝろなんと思ゝ空ゝ
こゝろん雁をゝ
たゝひ行あひ川のゝ

郭公人の秋こゝわりんゝ
ゝ心ゝゝ人の思ゝん

[illegible]

流川のもとにて人々とともに[illegible]

素性法師

うゑしをき[illegible]やいさてく山の深させかれてあるこゝろ

[illegible]

[illegible]

陸奥の国にまかりける[illegible]

[illegible]

思ひかねいとせとなれる[illegible]

ちぬさとうつろふらめと[illegible]

小野小町

[illegible]

[illegible]

くもるこゝろの[illegible]

つゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

侍従

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月やあらぬ春や昔の春ならぬ
我身ひとつはもとの
影にして

在原業平朝臣

花とゝもに我もうきてゝ思ひかな
春はなにしらぬ人もむかしより
藤原ときすを乃朝臣

ちりぬるを我をもとめん人もあらば
いかにこたへんはるのかぜ

元河内ゝつ

人恋の天ぐ空ふもとに思ひ
よみ人しらす

人をもみまくのうれしきあまくもの
きえかてにのみ見るかな

雲もなくなれるあれ我をやいとはれぬ
とゝん人ゝ

花ゝてゝめる人のあまくもゝ
うきあのゝあひてなりうれしかりけ
伊勢

○まくれうりう　けこ京一花の羽う
花の羽こあれば

逢ふをのみ待思ふこころの我袖やうら月こめるかな

後人こゝ後

秋ふかくそなく白露袖ぬれて我のこゝろ成ぬ

後世あまの塩焼衣なれぬ袖やまさきぬ

山樵の流れもこゝろかけたるあひ人なのむ我こゝろ

あひくるしき恋ゝ流れ川なれぬ思ふ袖

暁の時のこゝろきりぎすこゝろ君こゝ我こゝろ

ゆくこゝろいつゆ夜風乃寄も人のゆくこゝろ

わ袖ゆくこゝ時雨のこゝろ心落やこゝ

山の井あさ浅くも思ひぬるけふのこゝ人のこゝろ

忘草こゝろこゝ後世すれいとかくこゝ物こゝ

こゝろもとも逢夢のなきこゝ定こゝ乃こゝ人やあひこゝ

夢にこゝあひこゝ恋ゆくこゝ我やこゝ人こゝ

こゝ君こゝ——

唐も夢にこゝこゝ近こゝ思ひぬ中こゝ

こゝ乃こゝ

ひとゝ乃こゝ流こゝ人こゝ思こゝ乃こゝ

後白遍昭

わが宿にをしたまへるおきなをねもゝ
ゝこもとゝいひて別れ侍りし時の
なごり
よゐん人きてゝ
こゝのやゝ思ひもてゝひくしのなくなくかたらまゐれて
いまはとわかれ侍りしをうらみ侍りしの
ゝ
今ゝこゝと思ひ侍りゝ
月夜はいとゝ人まつるかゝ是ゝ雨をもゝ多く侍りつゝ
うへていの醤刈まゝ
こゝ人を待ゝ者の秋風いとゝ
ふ物ゝ

久しくゝ成ゝ侍りし所住の庭の松いとゝ物ゝ
うゝ
住の庭の松ゝ久しく成ゝ
なゝひ
成ゝ
ま
ゝ
伊勢
みゝの山ゝ
題ゝ
雲林院のみこ

[illegible]

今はとてもとまりぬべきかなとつぶやきて

なのこころまち

返し

人を思ふ社そふかけうの風のまくらもとにしめ

なれひとりの秋たきのあわつゆもとまるふ

すまの海をうらもなすあまそとり流

あひこそるいまそゆきわかれのし

ゐ絶てしのぶりしの歌

小野さと家

あ風や社ふるに人の如行ちとにあはいゆ物し

返し

なれひとりの秋下

ゆふ人の空のしるべぬるとい我のる山風やまと地

[illegible]

くけのわのあかきと

唐衣みれば身にしるまつれありけるのやいとつ偏

やまも乃ま

秋風ふるそ[illegible]つるあるく人乃心の元なるゆん

源ふ子 秋尼

はきもなく成り人の[illegible]ゆ物ちはれりみちあわ

[illegible]

人のとそんちをこうたのちとつくへくれは

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みひとしなり

世中の人の心にむつまじきまことの
心をもつてをしへられたまふ
しやか
こゝまち
心なき人たちつゝの花にはかりの
ちる人をこゝ
我のみやこゝろのとゝまらぬ
うせいはかり

思つゝもうれしかりけん人をいとをしんあはれ
ちる人をこゝ
今はとて春のなかれをいとる富の花をたにはみそやあはれん
もゝゆきの朝
三ぎまうれしかりけんとゝまらぬ人の心をこゝろをいとをしん
寛平法皇御屏風を秋うせはひろの時
あきうの
うせいはかり
三ぎまうれしかりけんと思つゝ
[illegible]

[illegible]の田人いとなつかしとなげくを[illegible]人の[illegible]

きのくに[illegible]

[illegible]の[illegible]ものを思ひ[illegible]海のいとなみ[illegible]

[illegible]人[illegible]次

[illegible]思ひきるものを世[illegible]

[illegible]

典侍藤原[illegible]

[illegible]世を[illegible]

いなは

[illegible]方の[illegible]思ひ[illegible]

寛平[illegible]

[illegible]の[illegible]舞[illegible]

[illegible]

題しらず

伊勢

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小町

平[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みたらしのあるあたりに人もかよはし

極上の秋の月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人の身のうわにいる時は夢のようにうつろひて

まぼろし

ちさとたゆるひやうしのまに流るる水の人石こゆ

きのうもけふもみまもるにいる時さるなり

ほうしゆ遊さ

あひたてゝぬ報身と思へとうれぬまぬ人う迎花

たてうも

時もいつも秋やい人のうつるへはまぬ成るうるまぬ

はうれたるひゆそうるなり

九河内うつね

神世月時雨ふるうそみちうたうひ人の秋ぬるう

ちてうおもひそうるなり

たてうも

ちう衣うつるいたうひ人の涙乃玉をうつ成るう

思ひ結うるなり月雨山さうへまうわうう過さ

うう歌

ほうしゆ遊さ

歌家乃れくさの当うわうにうう無中成思ひあるう

おりひさ結うるなり人をうてうひまうわうさうるなり

たてまつる

雲深き峯のたなびくやたしも海の面とのこる
安のおやは思ひて出でゝふるさとの人乃
とゝひつゝをわけきハ安ゝ日ふるあ

よもの人〻へ

月の山へよい海ハすゝ深の玉乃神のひる時りふ
遠国のとゝ波乃なれ乃ゝ成ゝてゝるあ

たゝむしれ朝た

春ゝ自ゝとゝ花のゝさゝやゝにゝ春ゝみゝ乃ゝ乃ゝ山ゝ乃ゝ

深草ゝみゝとゝ乃ゝ国ゝ忌ゝ乃ゝ日ゝよゝあ

文屋のやすひて

春ゝ草ゝ乃ゝみゝとゝ乃ゝ国ゝ見ゝ者ゝ〻ゝ乃ゝ春ゝ乃ゝ
ひゝるゝなゝまゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ頭ゝ乃ゝ
成ゝよゝれゝとゝ世ゝ乃ゝ遠ゝ国ゝ
ひゝえ乃山ゝ乃ゝ
うゝれゝみゝのゝとゝ〻ゝ成ゝ人ゝ
かゝう乃ゝ乃ゝたゝまゝ

ゆえなしと

[illegible]

俤山適眠

河原のおいまうちきみ

秋の月家のかたわらに松葉のさ

まさまなるもなほ[illegible]

家のうちにいれてわらべ

遊院の春のおいまうちき

藤原のうちの[illegible]

[illegible]

[illegible]

郭公なけきなるこゑをいたづらに時のうつるを

[illegible]

梅花うつりあひ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

河原の左のおとゝ[illegible]

のちの世[illegible]

所のさまをけぶり[illegible]

[illegible]

[illegible]

なき人のやどとおもひ出るものゝ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

月まちわたるとてよめる

藤原こそねのり

家を出とおもふ思ひをん我身も草にをくぬるわを

やまひしてよりくゝ成りてゝ時よめる

なわひとの朝臣

ものゝ行をゝくゝ成りてゝ暮ゝ思ハるゝを

うひのをゝ山をゝ行ゝ人ゝ

いんとゝまゝわ登ゝみちなゝふゝ

ゆゝまゝ踏ゝ成ゝ成ゝれゝゝ

ゝ

ゝ

古今倭歌集巻第十七

雜哥上

[illegible]次　後人

我うへの[illegible]をくるる天川とわたる舟のうきのりかくり
思ひつるもの[illegible]とのをもはる唐衣[illegible]
う[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]衣たてとゆふに[illegible]
[illegible]紀[illegible]たゆゆ[illegible]花[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]

先のおとゝ世なれて侍る所人よう人のきゝぬ
をゝなるとてしらぬ所をまる

なわひゝの乃朝臣

世のをとゝ家所はめもとるに乃なる所を素うわ秋さわ行
大納言つちりゝ社くふつ見れ乃い幸ぬをを
中納言よ成るる時ようめぬう人のきゝぬ乃お
や秋を所をてらめ歌

近院の右乃おいまう桃きを
きゝと人やとるゝん昔ゝわゝきゝ所ようめてゝ侍を

いゝ社神のゆむまゝ川ゝ高はゝ人もせていゝう
乃神といゝ所ゝ所ゝ侍る我ゝ川ゝ
かゝゝわたまゝ拝ゝれいゝ侍ゝひいひつ
ゝ侍ゝてゝゝみてゝ侍ゝゝ所

ゆゝる乃いまゝみち

日乃光を所ゝ侍ゝいゝ社神ゝわゝ
二條乃家さ記のまゝ素高ゝやすむ所と中
ゝ所ゝ侍ゝ社ゝ侍ゝて侍ゝひゝ所日ゝ
め歌

なわひゝ乃朝臣

おかりしやゝ小松の山もとゝ思いてゝ

五月雨乃森ひぬ枝へてゝ

よしかゝてゝ乃むねさゝ

あまつ風雲のゝ通ひちぢ山の海きりとゝめん

五月雨乃あまつ雲れ玉乃だらたわゝを

入てたゝ乃ん乃とゝひてゝ

河原乃おがいまう鳥きゝ

ぬやれゝ人と白玉いとゝ乃くゝ人や哀と思ん

寛平御時ゝ

うめ枝もゝ咲てゝ

乃おなゝ

くゝ人ともわゝひてゝ

ゝ

ゝ

かゝらしとみ山居まの村雨もあさ風ぬるん

方たゝへる人のあるゝ海の秋わたる時はあるゝの

きぬをまぜてわたる秋あるゝ人ひとそよ

きのとも乃わ

けふ

時乃ものゝ乃ゝ乃ゝ乃

[illegible]

[illegible]

[illegible]十一日の月もかくれなんとしてくもの
おりてみこしひそうちくいりあんとさとれいらえん
はるかに　なりひられ朝臣

あるかくまに秋の月のくもの出のさいそいまはもあるあん
田村のうちの内侍殿に新院より給るなのあ[illegible]を
いこれのくに成もくあやまちのわとて新院をお
ぼつかんとおもふをうれしとやふれうれふ

大宮院のうの行幸に清涼殿にて紅葉を
題にして　ほのま敬信
まえ人さうの次
いつの神のうえなのもうれしとうれしかるく
いつしかの紅葉の錦をかけてむ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
世中をうのあるものはこの國のなりけれ
さうれ業をあるものはうれしとおもふ

おなじかの歌をちのいとまにこゑをあはせ人もみ
みはてぬるのちあるまつのおいのなみ
かうまきはとまりぬ物をとしをへぬ
をしやるやまのうつ燈のうしろ我老ぬる風ぬ
みはあかしもしの乃たゑ人よ
おいるれしもとまりぬせいかもあるをも
こゝろのうちに着あわ学ぶうれしをうの
うあ西となん
はうこゑゆゑんとうあんとうるあ西とうの

とわともうるものあるいとを哀あ飛うとすうの
うあ〳〵とむ〳〵とうとしるれうるひうる歌
横山いとたちうそゆゑん寿あるうるおいおやあ
これうこはあ風人のいうく大使のうるあ也
なわひうの物に乃うしみうしなう物ふすう
物うる雨よ寿わひう喜清うひうそ時ともえ
まうわうつうしれ待うれいおいひうわうしうめ
ひうこのうちうみ入寿ゆうそ蛙ゆうそ
はうしうきうるをあけうそ物いおうはうなうく

[illegible]

逸一

世中をうぬのみすくもうらやましき人のれてあ

寛平后宮の歌合のうた

あわれいのちのもとやら

白雲に色へうりはるるうるはしき

おなの時のうへのうたのもとをのこともおなじ

みさをひとしあるいはあるはいとよ

うらまうまう

おいぬるそもうれしきもうれしきうん老といふものは

[illegible]

[illegible]人うた

ちはやぶるうちれ橋もうれなくはいとはしき

我をもひさしくあはぬ住の江の岸のひま松いくよへぬらん

住吉の岸のひま松人ならばいくよ世へぬるとやいまはあを

橋ちいろへの[illegible]代もうのうたそ[illegible]

このうたはある人のいとはしき[illegible]

かくして世をやけくうんそ[illegible]

藤原家隆

たまぼこの道をたづねん人もがな都の松は苔むしにけり

ちとせ

きみ

海のおもひはあひにけり漢のさかぬ物とはなれども

わたの海のそこにさせる島の浪をゆくあらし吹山

和田の原よせくる浪のたちくもみまがふ花の白雪

あまりてなほうらめしきは白たへの袖にまがふる

浦なれぬいろ見せぬ物を思ふ身の袖にあまるる

こゝん海のそこにしづみてはかりしられず

藤原たゝ雅さ

あををおもひおもひ河のそこ海のそこにあらはれてあらはれてあらはれて

つゝゐ

おきの河波の上に出て浦の松の色にうつる春の月

なかぬ日はなかりしかとなかぬ日はなかりしかとなかぬ日

難波にあつる玉藻の浦にあまをとめ我いかなる人にあつる

あひにあひにあまをとめ人の住吉の浦にあまをとめ

住吉の浦にあまをとめ

住吉の浦にあまをとめ

[illegible]

[illegible]

雨ふりたるのちまもなくゆをとなりふかくれぬるもとの
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

市川の流れを出て人とあらはまほしき事
けふとなりてはあは
なりひらの朝臣
ぬきみだる人もあるらし白玉の袖の世
もりの流をうべてもあるか
藤原清輔朝臣
たるあにひきたてまつる布をもて世をへてもとる人
題しらず
神たいしの
きるたびごとにあせれば白玉のたまのをかはたゆまざりけり

[illegible]門よりたてまつりたりしのぶとそよめあは
伊勢
たちぬはぬ衣をもて人もなき物をおもふに出ぬの布さらし
業平朝臣の妻門わのひぶ流はえをんとて
八月のあれば月かりまてあわるる時
うつる人にことをなるふるまあは
たちぬ風のなるをを
ぬきてをりてをる布をもたゆまぬ心をやるとはいふ
ひとの心なるをとはたゆまぬ実なりそよめあは

たゝえて

おもひて瀧のふるさとをつたへ老まさりぬる流きとゝ
おなじ　たゝえて

風雅のとゝのふ白やちいよ絶へてあつる水ゆく
四むら山時雨ふるゝ毋ひそ清原
風乃志濃流にゝ葉むらちるゝ小
おもひ流しを題とて歌ゝあとゝ
毋人とおかをゝ流をまたゝる歌

三条乃殿

思ひきゝ心の中に義をやかつとふれと義きこゝ毋
原風乃志るゝ花をよあ小

清ゝゆき

暁初一時ちのちいゝちゝて世いまゝやゝこのつゝ
屏風乃志るゝ世てゝきけ毋

坂上ゝ秋のゝ

かゝりてほゝと山間のいぶれよれてなきゝゝわれ秋の

古今和歌集巻第十八

雜歌下

[illegible]　[illegible]　[illegible]

世中に何かつもれるあらしの風そなふせふるる

いくとせもあり〳〵我こそ成るべき延喜の帝も思ふ[illegible]

[illegible]の歌を思ひ出ぬ世中はうさ

小野[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なのこそこさ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小野小町

[illegible]

題　[illegible]

[illegible]

[illegible]

うせい

いけるふるさとハいとゝんかなしのもゝまもりつゝ哀れ

よみひとしらす

世中ハ春のやうやうかすみわたりあに家ゝ

哀れ我いとゝ山の若草やあ風ふけむかとまちこんん

みよしの山あをゝ高ふる世のうき時のうれふせん

世をあきハうきまゝ海ふれたいの流たかとゝん

いろふん思ひあ中ハほのぼのハ世のうき事れきこゝろぼそん

是愛の山れまもりくゝうれかんうき世中いあふひとゝ

世中れうきくゝ行きあ奥山のこれふかまゝ雪やけ

むかしのかなしきこゝ

きのゝ亀乃ゝ

哀れうきあ人ゝあ山ゝいんゝハ思ふ人ゝほゝ恋れ

山乃かゝ落もゝ人ほゝりゝ乱

九河内ゝ

我拾ゝ山ゝ山ゝ人ゝ雪ハ消ちゆくん

初おりひゝゝ時いとき忘れこゝを入ゝ

ゝ夏ゝ何ゝいゝん竹のこれうきゝ世ゝ

[illegible]次

[illegible]みんさいん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年をへてとしをつもれるかみやしろ
あらしそのゝ今まいまのかをとりわけてとくおもひいるる
みやしろたちてきてねるそのやしろはへつゝう
まつはたそとはけてねるゝ時さまあり

えんやちのきくに

けくらしたのりとしにたちてゝまの山の花を隠
時なわすふ人乃ふりゝ時をくなりてゝあけく
なりてゝ人乃ふりゝなけるもゝ

なきこゝ我思てくらめふ

清原海ゝ

ひとわふき若ゝ小ゝをもとゝうゝまいされとくらゝ物思ふ
かつゝふ結ゝ時ゝ七条中宮とを結へ
をふ後ゝ

伊勢

久方乃中まひるゝとゝあれてえゝ雲のゝたの紅ゝ
紀乃とゝゝゝゝゝゝのすをにまゝわふ
時ゝむ乃をふむけせんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

時しもうしふまうわあるときに藤かまの
ひえさわられもはきりうの歌

なつわひしの乃ゆ下

今うちとけ物と人まつん里ばかりとをへわ
れうれひなさこのりとふまうまあるひろ波
うしおなをのといふ家よ物ろに屋
とうりんそまつわたわろ屋ひの光
ぬりとなわけまハ雪いとふつまろわきあて
れむろよゆわいろそ行うえろ屋り

はまくうしていとう物うあしそえうわまうて
きてよひえをろわけ面
えれてハ爰ろう思おもハや雪ふまそ光波うん
深草乃ちとふすう物て京へまうしてろそ
うこなわろう人よひえ波くわろ波
年波へてすこうさ波いそいふハ心ろ深草ろ波なん

返

よん人ろう波

ほとなくハうつと西北へ人うわいさやハ雪ハこ
もしうる

我を思ふ人はいとうきあはれなるのあかと成るき
こゝろうこゝはある人もまたあわきあはれのみ
なこゝろはあるよれハなふのこゝろてよ
海わあまふ成てまたなこゝにつゝハせを
こゝ海とゝん いへる

逸一

なふりこゝろもあきたもあたをこゝ成るのあまとハ
いとまとまつへき人もなたわを思へもてハ行せわこゝへ
ともたれ久へ一ゆてこゝわこゝ海わ

こゝみてはこゝろ新

人をとゝ

人をとりてひこゝあわこゝあわにあい
うこゝんこゝ新こゝあ新

月をはこゝゆこゝ一まこゝん思ゝわほゝあこゝ海ハんあをこゝわ
もゝ成れあこゝわこゝ海こゝわ海こゝてきこゝわこゝる
時こゝ雪乃ゝあわきこゝ成こゝなのゝ思ひハこれ雪の
こゝくなんはこゝ新こゝいひこゝ海あわにあ海

[illegible]

宗盛大納

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題　[illegible]

[illegible]人[illegible]

[illegible]

[illegible]

きせん法[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]人[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二條

人[illegible]

[illegible]人[illegible]

[illegible]

[illegible]

たう人ゝ所つゐてまゝうん行を所

ぬちゝれたゝうさ

あゝ竹のまゝきう人まゝうる事乃おきの人あを思けゝか

毛しゝ次　　うゑん人しゝ

風つけいおきう自浪ゆ山事はまゝや恵うひとわこゆん

あ所人このうゝさいせゝ　大和國あわゝる

人のむひあにある人すゑわゝをゝこれ女流

なゝ成てあしゆ成りあひゝこのおゝこ

かうゝれ事人をひのゝちてかゝうひゝれ

乃ゝ成ゆきゝうわゝさるをけまゝゝもけゝをなるを

しゝきゝみゝゝさかうゝちへいくゝとふ男のんゝよゝく

小つゝいゝゝ色わゝれてあやゝゝと思れゝ

なきまゝふゝと心ゝやゝをゝうゝひて月の面白

うわをゝる事ゝうゝちへいゝまゝゝもゝてせんさいゝ乃

ゝゝにかゝれゝくみゝ秋ハ事ゝゝるまゝて思ゝ後き

なゝしゝつ寺歌てゝれ方後談ゝゝまゝれ光を

きゝてゝう後ゝゝわゝよりゝへゝまゝゝゝしゝゝゝふゝゝわゝと

あんいひゝゝくゝへゝゝ歌

たちみるきゆのつをとわう夜たつこの中あわうへてなく
まひるまん時ものとうはうちとわ行ものとうぬ流をとうむる
貞観十四年万葉集ハ以のりわぼく行るうと
とうせたまひうれハ流てたくまつわ書る
文屋あわすゑ
秋ふ月四雨降をうふ秋のあふ空ハ雨ふること花
宮平ハ時ものたまはわうふ花
まつをけ面　大江千里
あしうのひとわ秋くれ時ものとうぬ空ハ雨のとまるきこしつ
人をまひ恋ハ恋ハ恋ハ　梅ちりぬ
秋ものうる時ものをとうぬ　花ちりぬ
おくふきはくそまつをとうぬ　伊勢
出川のをとふのきくたち流方をとうやなるるとうぬ

古今集歌集巻第十九

雜体

短歌

旅人

あまのはらふりさけみれはかすかなる
いにしへのやまのはにいでしつきかも

あしひきの やまかはをしさやけさに
あらしふきぬと人をしらんや

わたつみの おきをこぎいでてみれはいまを
いろこそ なにはのうらのはるのあけぬる

たゆたふ時の

かくあるに　思ひもかけぬ　ゆふぐれの
ありへども　えあるまじき　思ひかな
あり明の　山ぢたのみ　こうく行て　たまつ緒を
たまにても　あひてすいん　きよらかに　人さわぬへん
すまうあれ　ゆめよりあれ　ひとわのあて　あり行くと
おくきのまわ　せんをへまる　小りて出て　たちやひくへ
さ行くへの　夜乃ちさま　をく家の　きふいくあへく
おりへども　おなけまあ　表ひく　ようにも人よ
ほうれと行へい

あふうてまうう時のもく後社のあり
ほう　拾遺

ちはやぶる　神のみくしく　竹の世にたたひ
あまひこの　俗と山乃　くらひくれて　おひくれて
ちくれ乃　やもと後よ　さうまけて　山ほくまの
なくこと水　れ行きあて　うくわ　たつの山乃
もみちく成　ひくの志の　神世月　さくまくて
みれ葉の　庭もくれな　ぬる雪乃　おきくへ石
とくとふ　時よつきく　あくれふ　こと成ひて

思なのこと　ちよにといふよ世れ人乃　おもひする れ
みのれ　もゆる思ひも　あひして　わすれなこと
ぬちこんも　を祈る　ん　やちくれ　ちよれてとふ
すへてこめ　おりせりこえん　まきくの　中よきくひと
いせのこれ　浦乃ちかひ　見ひあつめ　と祈ちひまこと
たまれをの　ひ　き心　思ひあへを　祈あ大ふれ
と祈へて　大宮ふ乃こ　久こと乃　ちかふるわひ
ちこふこて　かへちみまぬ　わやとの　ちの宮ふる
いこ海あこ　ぬるまこ南の　ちちやーぬちん

みちうこにこうへたまふまふなこと

きまを忠孝

れ竹乃　れれ　ちこと　なこわせて　いこりのぬすの
いふこて　おれふれを　のこへまー　ほこ祈せこへ
あわきこふ　人ま祈ちハ　う祈れれ　男こてなこと
これれこ我　あまの宮まて　業こあけ　すこの世まの
あここの　ちもあせの　こ祈ふを　ちちはきをや
ちれ男に　ほまこを　とりこん　これを思へハ
こここの　雲にわこん　人祈こて　ちれなこけも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちりやぬる　神な月やけさしぐれ　くもちあへと
うちしぐれ　紅葉とりふ　みつちよの　うつれる山の
山あゐも　さむくはとよ　あわゆきは　雪をとけて
こぶちつゝ　あれたるれ　ちもこりわ　いやうつまさる
庭のたもふ　むらくゆる　みくされ　うへよりわく
ちつゝ雪れ　はちわくて　あつたまの　年越あまも
すくつるか

七条の家うれくせたまひきるのちによんくる

九河内能植

伊勢

むきつるあと　あれのゝまさる　宮のうちは　ふそすはん
雪のはまも　あるゝまさる　ゆたて　まんくあく
かゝるまさる　海のいろの　くれ年は　わまつるあれ
時間ふく　秋のよちと　人くは　をのちつく
まつれ春　あ世つけは　あつそて　ときはぬと
くるすは　見なれ庭よ　おれまて　六歳まつは
つりれ　なきちつて　くちにつ又あ

越頭哥

影一次　後人一首

うちわたすをちこち人の釣舟のはるかに見えて鶴なくなり

さをしかのこえのみちにのこるかな

西行

吉野山のへまもとあるぬまもまたあるかの

白ぬのなかれなりけり

影一寸

くれなゐの川ゆかのへとすてあるぬまとみれば

ろん二すとあるぬまとも

清少納言

あかつきの雲

影一次　後人一寸

梅のかをみるきつまを尋ねひとくくとひとりもとる

素性法師

山吹の花いろ衰へやたまとへとちりかかりは

藤原敦行朝臣

いくとせ成つる所ぞ郭公そのたを成れるくらん

七月六日たゝりの人丸ようの歌

花ゆうすを

いつゝとまりて心をくるあけぬれはあしたをそふやうん

影ーー

九河内うつし

もつともまつつまゝくもの水のうへ

秋のゝ小萩めきたるゝ

傍示遍照

ゝみ人ゝ次

ゝゝ花も

ゝ

ゝ

ゝ

題しらず　よみ人しらず

いろみえぬ人のこころ[illegible]
枕とわ[illegible]
[illegible]
あわぬやと[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

題しらず　小野小町

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

平貞文

秋のよ長なき春のきさらぎ[illegible]

[illegible]

みつね

[illegible]

たゝかた

かゝれぬのさゝらわかつる[illegible]

[illegible]人さゝ[illegible]

[illegible]思ひやいひそめぬる世[illegible]

思ふ人の[illegible]

思ふも思ひのいつ[illegible]

我をのゝ思ふといふ[illegible]

わすれ思人をおもはぬ報ひやわ思ふ人の我をおもはぬ

一かね

思ひゝん人をう友と思ほ[illegible]

一[illegible]人さゝ[illegible]

出ゝゆゝん人をとめんと[illegible]

[illegible]ようめ心ばたのまれて人をあくにいうけるてふわ
いとゝ所我身はまことに弱きやのひとゝなりぬる
[illegible]ひとゝ我ゝい人のつまをもとめん
ちゝはゝに友人まもちのみやく家敷わるひとわ
[illegible]

卒中奥

[illegible]敷あきに敷つかへて月をへ
[illegible]
[illegible]の山ゝおもとゝれんと思我のやかゝ
なりき

雲ゝ[illegible]あゝ[illegible]の山のあゝ[illegible]やゝ人の心をうゝ[illegible]

伊勢

難波のゝなゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ我身ゝ[illegible]
[illegible]ゝ人ゝ[illegible]
まあなれと[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
おもゝ[illegible]

何ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
いとゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

題　[illegible]　[illegible]

孫さと成さの間[illegible]や[illegible]

[illegible]　大[illegible]

[illegible]　[illegible]人[illegible]

なのさ成[illegible]

人[illegible]

[illegible]

[illegible]

世中[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅の花[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義作やくあれさう山ちくしやうのはえ　義代まそよ

これはあれをの法へのうあるふのうち

この國をきの海川さ法てを見ほへん百代まそよ

こ歌は元慶乃法へのえのうち

見う世はきちもあしなすうん風乃まゆの数はよふ法ともも

ふ歌はいたれの法へれいせのくふれうち

あふこのや鏡の山をたそれはもそうゆる春の夕年八

これを今上の法へのあるえのうち

大使のこ法ぬ

東歌

みちのくうち

あふくあきさかたちくもわのぬるも見ぬはやしまそ恋しきみ

ひたちのくふつくあれと法まれ浦こく歌のつまそうもも

ワをこを新やるそ法あのまつ法のまつそ恋き

むくあ歌このうあのこ山の人ふ歌のつとまいさといいまを

みふふひひくさきせあこの春れ下寝は雨は山あこれを

もみ川のれは上ふいふ母のいるふあこの月ワ

見をまそあこんをわもこは未の松山浪もこんん

さうくんまる

こよなめいてちはつせめてうぬもるもなれ涙

ひとちうた

ぬくいはしめもれをまけあれと言らみけまはしの紫なし

つくいもの岩の苔の紫は岩つもわもるもーぬをへるなしも

かひうる

ひうる岩やおもへ人くれかくるかわぬをほうやの中は

甲斐の孫をもう一山うー流を人もかやちうそやん

伊勢うまる

みすの間からさうかるなみなりもおひは藤うりん

みれ紫の花のうまほわのうる

藤原ちう藤さの松に

ちや花ちもの社のひをこ松ちうの世ともこいうう

宗祇法師之女性書入以堂雲賦奇今別言之

巻第十　物名部

ひるゆる

ひるゆる

うの海人は高木ひるゆる足引の山乃尾まのひるとも

夜部五下宣帰上

かくもとかくもかくもたまもきそもそんそうはうめほと成ものを

をそくまこまとかまの成則下

くれのおも

つゝ遊さ

うゐと思つゝまれハ夕暮れ

恋草刈負下

をぶれ井うやうゝ

をのこまち

ゆるの井てゝ袋をくゝりもかるのまさに思ひまの前袋

かくもとく清行下

うめとの　あそもち

あやもち

うきめ袋ようもとのそのれゆくまれあるゝ山のうりと

みれうゝい水乃をのみとのうめとれよりわあるゝ人

うゝりたまうゝ宮時よりめ歌

桂宮下

巻才十一

奥山蕨の折しれきつる雪下

[illegible]人をうらみる心は大井川なる所水はやくして
わきもこひあつさる山のもれもて[illegible]

寒夢十二

こひしくはたゝ我れなんぞの下
いぬるもれとこの山なるまもる川いとゞやはつかるひ
こゝろうこあふ人あめれとのあつまの
うゝめにたまへふと
うゝめれてまつふ
山もるの寒の川のをとにたゝ人のうへ我こひぬ

巻第十四

むかしよりあるものゝ[illegible]
うゝ我わひあれはゆめてみゝ我しひ
たゝくまつわて
わをこゝろへなふ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

古今係歌集序　紀淑望

夫和歌者託其根於心地發其花於詞林者也人々在世不能無為思慮易遷感事形於言是以逸者其聲安怨者其吟悲可以述懷可以發憤動天地感鬼神化人倫和夫婦莫宜於和歌係歌有六義一曰風二曰賦三曰比四曰興五曰雅六曰頌若夫春鶯囀花中流水鳴山裏樹上蛙無曲折各發歌謠物皆有之

自然〻理也然而神世七代時質人淳情
欲無分和歌未化遠于素盞烏之到出雲
國始有三十一字之詠今古奇〻化也
淡路嶋天神〻孫海童〻出莫不以和歌通
情者蓋及人代以風大乾長歌雜奇雜頌
混杳〻類雜雜非一源流漸繁海雲於拂
雲〻樹之自寸苗之煙浮天〻波起於一
滴〻露玉如雜波津〻什獻
天皇冨倫川〻篇太子或事南神異或
與入幽玄但見上古奇多存古質〻語未
為耳目〻歌徒為教誡〻端古
天子每古底義采詔侍左領寒遠者歌和
歌君臣〻情面斯可見異愚之性於是和
尓所以民〻歌擇士〻文也自大津皇
子〻初作詩賦河人文子慕風徙塵移俗
漢家〻字化我日域〻俗民業一改和歌
漸衰徒於先師拂本大文志之振神妙
〻思獨步古今之間有山辺赤人者並和

歌仙地之所業如歌者彌〻不絶及後時
家流漸人貴奢淫溺雲與影流泉涌其
實皆為其花孤榮色〻好〻家以此為
色〻〻侈尤食〻為以為活計〻遂故
半為婦人〻云雖進大夫〻前近代有古
風者絶之之人然長雖不因論以の弁色
山僧已尤得歌於然之河花而少實如為
畫好女流動人情色原中將〻歌其情〻
條〻河不足如葉花雖少彩色而有其香

文雖巧詠物殺其於近俗如賈人〻其餘
去字治山僧去撰之河色麗而肯尤淳滯
如星秋月遇曉雲小野小町〻歌古衣通
姬〻流地然艶而無氣力如病婦〻美花
彩大友黒主〻歌古樵丸大夫〻〻地形
有逸興而於其部如田夫〻息花如知
小氏姓流聞者不可勝數其大底皆以艶
為基不知歌〻意者也俗人爭事業利
不用詠和歌遊戯〻〻雖貴兼相將冨倍

金蔵而骨未腐去中名先滅於世之適為
後世被生者所称〻人而已何者語近
人耳義慣神所也著乎陳　天子詔侍臣
〻撰萬葉集自尒以来時歴千代数百百
年〻後和歌奇妙未被採撰風流如蜜事相
撰集如在納云而皆以他手間不以斯道
所
陛下清宇宙今九載仁流海涯洲之外惠
成蒼波山〻法測霊為瀬〻孝〻寧〻角口

砂長為巖〻砂洋〻滿耳思慈既絶〻風
砂與火廢〻是叢詔大内記紀爰則佛書
所載紀爰〻前甲斐少目凡河内於拾云
清〻府主主忠岑小名獻家集并古来
舊歌日漢万葉集小是重〻詔新類不来
〻奇勤為二十卷〻名曰古今和歌集長等
河〻長〻〻絶名寡秋夜〻長咒式進恐
阿倍〻〻〻迎慈戈藝〻拙適遇和歌〻中
與以示長〻〻森昌嘗年人九既没和歌

不夜斯武于時延喜四年歳次乙丑四月
十八日辰巳〻等謙齋

此集〻所称雜説〻多之但師説又
加了見為倚授学〻説故不能免眼
〻不拘守自説〻説代俗乗〻好之以
出生〻共諸称〻識〻秘事可謂危
〻麁拙不可用〻但如此用捨共可
任意身〻所好不可存自他〻差別
志同者一任〻
貞應二年七月廿二日　戸部尚書藤　亨判
同廿八日〻渉合注出入義字畢

傳于孫可為將來之法事

青藏氏書